調査報告　進学センサス2016

大学は、高校生に伝わる形で教育内容を発信することが必要

進学希望分野

人気トップは
文系:男子は経済系、女子は国際系
理系:男子は工学、女子は看護

まず最初に、大学進学者の進学先希望分野の変遷を見る。

全体として2011年調査より連続で増加している分野は、「工学(建築・土木)」(2011年4.4%→2016年5.4%、以下同)、「薬学」(6.7%→7.3%)、「生物・農・獣医・林産・水産」(8.8→9.5%)となっており、すべて理系の分野である。一方、2回連続で減少している分野は、「経済・経営・商」(27.1%→24.5%)、「社会」(13.7%→10.7%)、「文化・地理・歴史」(12.6%→11.7%)」等で、社会科学系を中心に減少している。

また、大都市圏と大都市圏以外で差があった分野では、大都市圏では「経済・経営・商」(大都市圏26.1%・大都市圏以外22.6%、以下同)、「社会」(12.2%・9.0%)、「観光・コミュニケーション・メディア」(9.5%・8.0%)等いわゆる人文・社会科学系の人気が高い。一方大都市圏以外では、「医療・保健・衛生」(8.4%・11.5%)、「教育・保育(15.6%・18.5%)」等が大都市圏より高く、資格志向が強い傾向がある。

〈文系男子〉は図表1の通り、「経済・経営・商」が5割以上、2位の「法律・政治」が3割強と、ほかに比べて上位2分野に人気が集中していることが特徴だ。上位10位のうち、2回連続増加したのは「国際関係・国際文化」のみだ。

〈文系女子〉のトップは「国際関係・国際文化」(28.2%)。2回連続増加している分野はないが、上位10位のうち、「教育・保育」「法律・政治」に関しては前回より上昇。後者は女子を対象とした法律系の学部の新設が増えており、その影響もあるだろう。女性の社会進出に伴う新しい女子の役割が、希望分野に反映されているといえる。

〈理系男子〉では、3割強が「工学(電気・電子・情報)」でトップ。2回連続増加したのは「工学(建築・土木)」のみとなっている。震災復興やオリンピック開催決定で、社会的ニーズが高まっている影響もあるだろう。

〈理系女子〉では、「看護」が3割弱でトップ。前回より4ポイントほど上昇している。こちらも上位10位で2回連続増加しているのは「経済・経営・商」のみだが、前回と比較すると、「生物・農・獣医・林産・水産」が増加。食の安全やバイオ等、生物系のすそ野が拡大し、女子の農学人気も高まっている。

前回調査では、不況を反映して手に職・資格系分野の人気が顕著であったが、今回はそれに加えて、社会情勢や今後のマーケットニーズ等が人気に反映された結果となった。たとえ高校生になじみのない分野や業界でも、現在の状況や視点のみではなく、将来性を伝えていくことでマーケットを広げられる可能性がありそうだ。

進路検討プロセスごとの時期と利用メディア

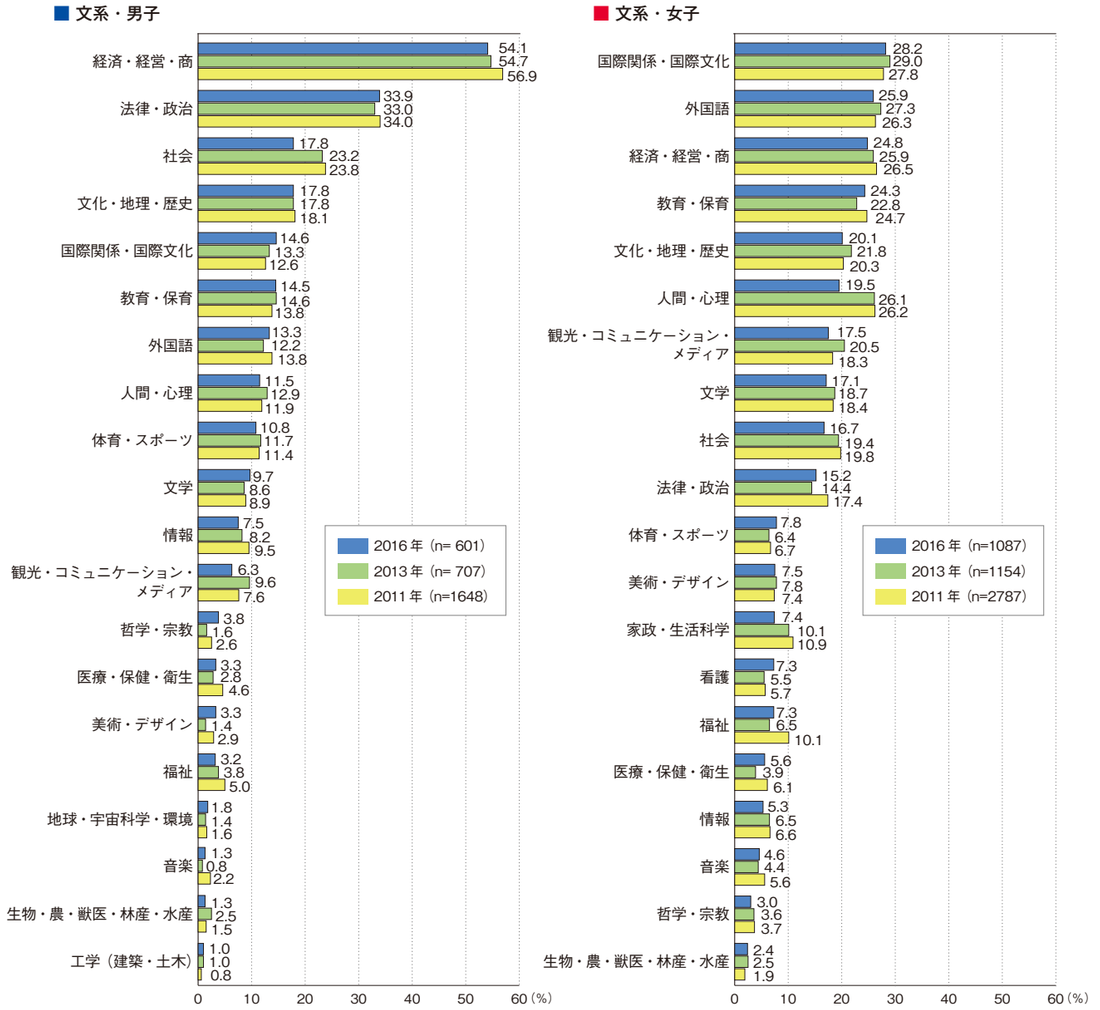
大学・専門学校は高3夏
短大は高2の冬までの
校名認知が重要

次に、高校生が「何を」「いつ」「どんなメディアを使って」決定していくのかを見ていこう。

図表2～4は、それぞれ大学進学者・短大進学者・専門学校進学者の「第一志望校を受験校に決めた時期」の累計で、各フェーズの実施者が全体の半数を超える時期に吹き出しを付け、それぞれ影響を受けたメディアのトップ3を記載したものである。

〈大学進学者〉が最初に大きく動き出すのは高校2年の夏で、分野決定や学校研究開始者が半数を超える。これは高校のオープンキャンパス指導

図表 1-1　進学を希望する分野（大学進学者全体／複数回答）



※それぞれ「大学進学者(2016年)」の降順ソート　※上位20位を掲載　※2011年は東北を含まない数字

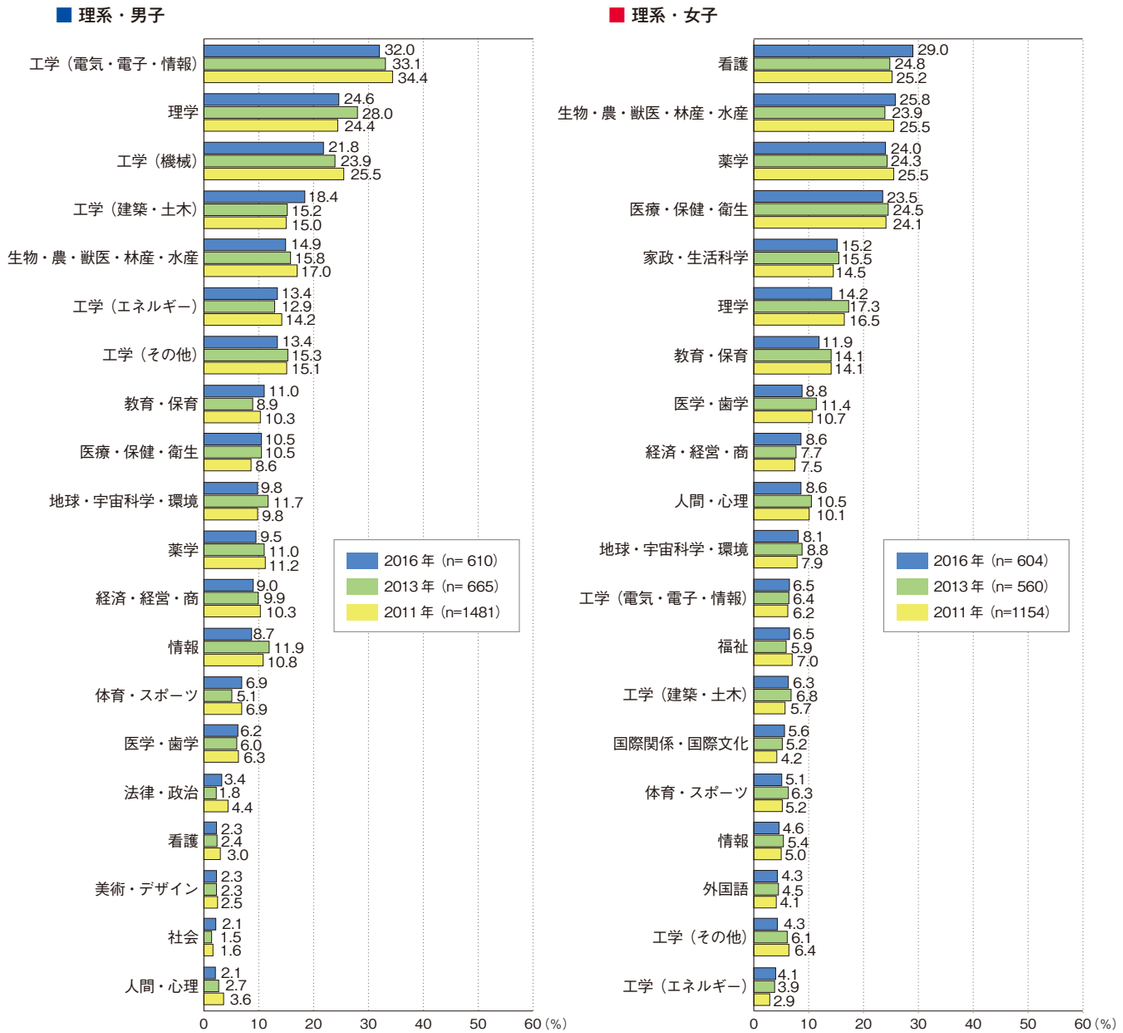
の影響で、参加する学校を決める際に、自分の関心のある分野を考え、その分野を学べる学校を探すという授業が実施されるためである。その結果、秋には半数の高校生が「第一志望に関心を持つ」。学校の詳細比較のために資料請求も実施される。

この時期にはまだ憧れも混じっていた志望校検討が、一気に現実味を帯びるのが高校3年以降である。進路希望調査が実施され、4月の模試の結果が返却されると、志望校は具体化。部活引退で受験モードになる高校生は、夏にかけて意識を高め、7月に半数が受験校決定。それに伴って併願校検討も開始される。そして秋の模試の結果を考慮に入れて、12月に半数が併願校を決定するという流れだ。

ポイントとしては、①全体的にピークとなるのは高3以降だが、高2からも動き始めているため、早期広報の必要性があること　②受験校決定、併願校検討共に高校3年の夏に実施されるため、そこまでに校名を認知してもらう必要があるというところだ。

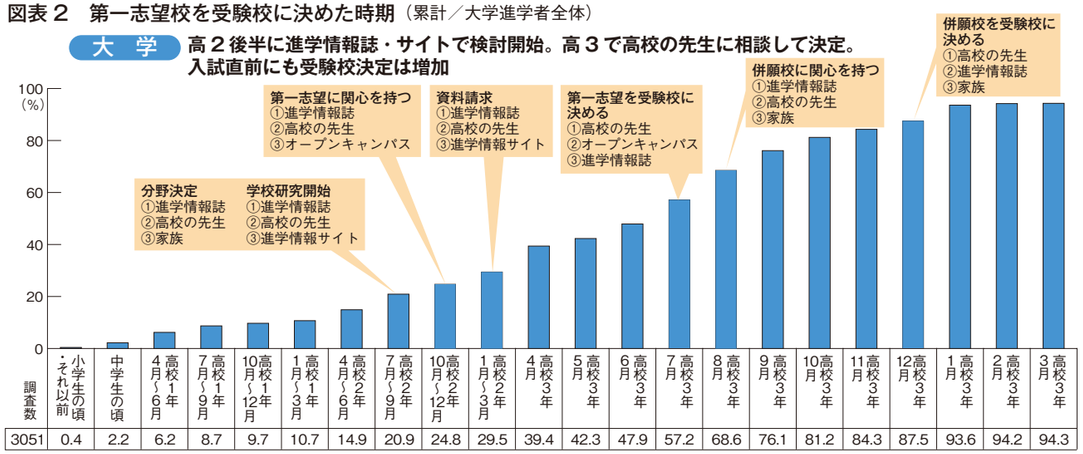
図表にはないが、全体的に男子より女子、多様校より進学校の高校の

図表 1-2　進学を希望する分野（大学進学者全体／複数回答）

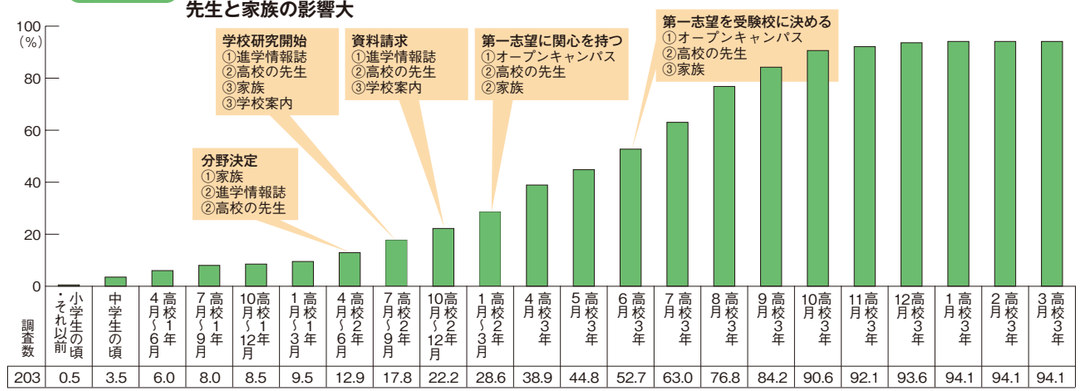


※それぞれ「大学進学者（2016年）」の降順ソート　※上位20位を掲載　※2011年は東北を含まない数字

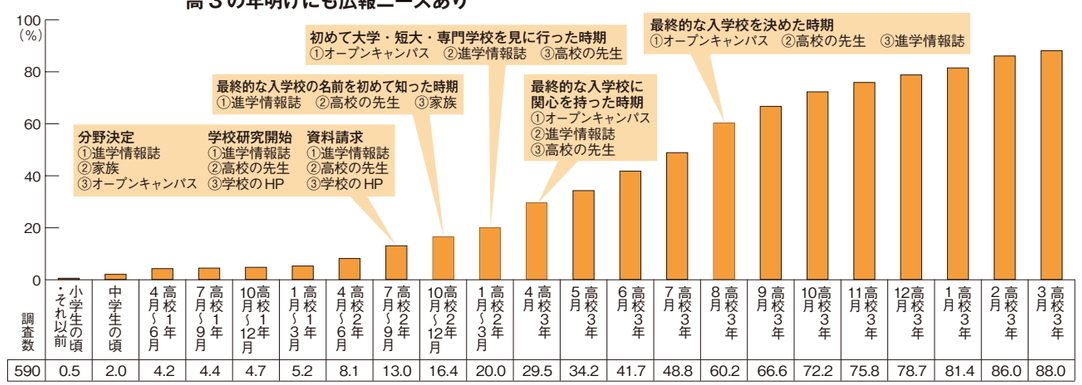
図表 2　第一志望校を受験校に決めた時期（累計／大学進学者全体）



図表 3　第一志望校を受験校に決めた時期（累計／短大進学者全体）



図表 4　最終的な入学校を決めた時期（累計／専門学校進学者全体）



※吹き出しは各行動実施者が 50% を超えた時期　※①②③は、各行動において影響を受けたメディアのそれぞれ１位、２位、３位

生徒のほうが、動きが早い傾向にある。分野に関しては、看護・医療技術系、教員養成系等、資格が必要となる分野の志望者は動きが早い。彼らに対しては早めに大学を認知させる必要があるだろう。

利用メディアに関しては、分野決定や学校研究・第一志望や併願校の関心時には進学情報誌がトップとなり、受験校の決定時には高校の先生がトップとなる。進学情報誌で検討し、先生に相談して決めるというのが大きな流れのようだ。また、第一志望校の関心・決定にはオープンキャンパスも影響が強い。

図表にはないが、女子は全体的にメディアの利用率が高く、特に「オープンキャンパス」「進学情報サイトや学校ホームページ」の影響が強い。

一方、男子は「友人・先輩」「塾・予備校の先生」等、周囲の人の意見を聞く傾向がある。

〈短大進学者〉は3つの校種の中で一番動きが早い（図表3）。女子が多いこと、AO・推薦入試受験者の割合が高い（77.4％）ことが影響しているだろう。分野決定は高校2年の春に半数以上が開始。高校3年の6月には受験校を決定してしまう。早めの広報が肝要だ。

利用メディアに関しては、学校研究や資料請求は進学情報誌の影響が強いが、入学校の関心や決定にはオープンキャンパスの影響がトップとなる。また、分野決定の1位が家族であるなど、全体的に高校の先生と家族といったステークホルダーの

図表 5-1　進路選択時の影響メディア（大学進学者全体／各時期決定者／各複数回答）

（%）

	調査数	高校でもらった進学情報誌	自宅に送られてきた情報誌	高校の進路指導室等にあった情報誌	書店で買った進学情報誌		書店で買った本	高校の先生が作った資料	塾・予備校で配布された資料	進学情報サイト（パソコン）	進学情報サイト（スマホ・携帯）	高校の先生からの情報やアドバイス	塾・予備校の先生からの情報やアドバイス	友人・先輩からの情報やアドバイス	家族からの情報やアドバイス	学校内で行われた進学説明会・ガイダンス	学校外で行われた進学説明会・ガイダンス	オープンキャンパス・学校見学会	学校案内やパンフレット	各学校のホームページ（パソコン）	各学校のホームページ（スマホ・携帯）	新聞広告	ブログやSNS（LINE、Twitter、FB等）
学んでみたい分野を考え始めた時期	2956	12.9	5.9	1.8	0.4		0.9	1.5	0.9	2.4	3.7	14.4	3.3	5.5	15.1	3.9	0.8	5.4	3.3	1.3	1.9	0.2	0.9
学んでみたい分野を決めた時期	2953	12.0	5.7	1.7	0.4		1.3	1.6	0.8	2.5	3.6	16.5	3.8	5.9	13.9	3.5	1.0	7.8	4.2	1.6	2.2	0.1	0.7
どんな学校があるかを調べ始めた時期	2917	22.6	10.9	4.6	0.7		0.6	2.6	1.5	6.7	8.7	18.2	4.2	4.1	7.7	4.6	1.5	6.0	6.8	4.1	5.9	0.1	0.5
興味を持った学校の資料請求をした時期	2789	19.5	13.3	3.5	0.4		0.3	1.1	1.5	5.0	7.9	14.1	3.2	2.4	6.4	3.0	1.7	6.1	6.8	4.1	5.3	0.1	0.5
初めて大学・短大・専門学校を見に行った時期	2832	9.3	5.4	1.8	0.3		0.3	1.1	0.7	2.7	3.5	18.6	2.5	6.3	8.5	3.0	1.3	17.3	6.0	4.9	6.6	0.1	0.5
最終的に入学した学校の名前を初めて知った時期	2932	11.1	5.1	2.4	0.3		0.3	1.1	1.0	3.4	4.7	16.1	4.0	6.2	15.2	2.2	1.0	3.6	4.6	2.8	3.3	0.3	0.9
最終的に入学した学校に関心を持った時期	2923	9.3	4.8	2.2	0.3		0.3	1.0	0.9	3.3	4.9	17.8	4.5	5.9	11.8	2.4	1.3	13.7	9.8	4.8	5.6	0.1	0.5
最終的な入学校の入試方法を知った時期	2963	10.2	4.3	3.2	0.4		0.4	1.9	1.1	4.3	6.3	19.2	5.6	2.8	5.6	2.1	0.6	10.2	13.9	7.1	9.2	-	0.5
将来の仕事について（就職や職業）考えはじめた時期	2566	8.3	4.1	1.2	0.2		1.4	0.7	0.6	2.3	3.2	12.2	3.0	5.0	17.5	1.9	0.4	4.5	3.7	1.6	2.1	0.1	1.1
第一志望の学校に関心を持った時期	2976	11.2	5.2	2.6	0.2		0.4	1.2	1.0	3.5	5.4	18.9	4.4	6.6	12.8	3.0	1.7	13.6	7.6	4.0	5.3	0.2	0.4
第一志望の学校に資料請求をした時期	2733	12.8	7.7	2.7	0.1		0.1	0.7	0.8	4.2	6.4	15.4	3.5	3.0	8.6	2.3	1.8	10.4	7.5	4.8	6.4	0.1	0.4
第一志望の学校を受験校に決めた時期	2877	8.7	3.9	2.2	0.1		0.2	0.8	0.7	2.6	4.0	23.5	6.5	4.4	12.8	1.8	1.0	17.0	9.5	3.8	5.3	-	0.5
第一志望以外、併願した学校に関心を持った時期	2151	13.2	6.5	3.0	0.5		0.2	0.9	1.3	4.3	7.4	20.0	8.6	4.2	11.5	2.1	1.3	8.3	9.2	4.1	6.4	-	0.6
第一志望以外、併願した学校に資料請求をした時期	2044	13.2	8.7	2.6	0.3		0.3	0.7	1.2	4.3	7.8	16.1	5.6	2.3	8.7	2.1	1.3	5.6	8.8	5.2	6.8	0.1	0.3
第一志望以外、併願した学校を受験校に決めた時期	2021	9.6	4.8	2.1	0.2		0.1	0.7	1.1	3.2	6.1	22.5	10.1	3.0	11.5	1.7	0.6	8.4	11.4	4.7	6.6	0.1	0.3

図表 5-2　進路選択時の影響メディア（短大進学者全体／各時期決定者／各複数回答）

（%）

学んでみたい分野を考え始めた時期	195	10.3	7.7	1.5	-		1.0	2.1	0.5	2.1	3.6	13.8	1.5	5.6	16.4	5.1	1.0	6.2	4.6	2.1	1.5	-	1.5
学んでみたい分野を決めた時期	194	9.3	4.6	1.0	-		0.5	2.1	0.5	2.1	4.1	14.9	2.6	4.1	18.0	4.6	-	8.8	8.2	2.1	1.0	0.5	1.5
どんな学校があるかを調べ始めた時期	192	24.0	14.6	5.2	0.5		-	3.1	-	4.7	9.4	20.3	2.1	5.2	10.4	7.8	3.6	5.2	10.4	3.1	6.3	0.5	1.0
興味を持った学校の資料請求をした時期	189	18.5	16.9	2.6	-		-	1.6	-	4.8	5.8	15.3	1.1	6.3	9.5	6.3	4.8	4.8	10.1	2.1	6.3	0.5	1.1
初めて大学・短大・専門学校を見に行った時期	194	9.8	8.2	2.1	-		-	1.0	-	2.1	2.1	17.0	0.5	6.2	7.7	4.1	2.1	22.2	12.4	2.1	4.6	-	0.5
最終的に入学した学校の名前を初めて知った時期	195	8.7	6.7	3.1	-		-	1.0	0.5	4.1	5.1	15.9	0.5	6.7	16.9	1.5	1.0	7.2	9.2	3.6	7.7	-	-
最終的に入学した学校に関心を持った時期	193	6.2	6.2	3.1	-		-	1.6	0.5	2.6	2.6	16.6	1.6	5.7	14.5	3.6	1.6	23.8	13.0	4.1	5.2	-	-
最終的な入学校の入試方法を知った時期	196	7.7	7.1	4.1	-		-	1.5	0.5	1.0	2.6	25.5	1.5	3.6	6.1	2.6	0.5	18.4	21.4	7.1	7.7	-	-
将来の仕事について（就職や職業）考えはじめた時期	181	5.0	4.4	1.1	-		1.1	2.8	0.6	1.1	1.7	14.9	0.6	4.4	16.6	2.8	-	7.2	6.6	0.6	2.2	-	0.6
第一志望の学校に関心を持った時期	197	5.1	8.1	2.0	-		-	2.0	-	4.1	4.1	17.3	2.0	7.6	17.3	4.6	2.0	18.8	10.7	4.1	4.6	-	-
第一志望の学校に資料請求をした時期	183	11.5	10.4	2.7	-		-	1.6	0.5	3.8	4.9	12.0	-	6.0	10.9	3.8	1.6	14.8	10.4	5.5	3.8	-	0.5
第一志望の学校を受験校に決めた時期	191	3.7	4.7	1.0	-		-	1.6	-	1.6	0.5	24.1	1.6	6.8	14.7	4.2	0.5	27.2	11.5	2.1	2.6	-	-
第一志望以外、併願した学校に関心を持った時期	85	8.2	3.5	3.5	-		-	-	-	2.4	3.5	23.5	2.4	7.1	12.9	5.9	2.4	15.3	16.5	-	7.1	-	-
第一志望以外、併願した学校に資料請求をした時期	81	14.8	7.4	1.2	-		-	-	-	1.2	3.7	22.2	1.2	4.9	4.9	1.2	4.9	11.1	11.1	2.5	6.2	-	1.2
第一志望以外、併願した学校を受験校に決めた時期	59	10.2	3.4	-	-		-	-	-	1.7	1.7	27.1	5.1	5.1	16.9	3.4	-	11.9	15.3	5.1	6.8	-	-

図表 5-3　進路選択時の影響メディア（専門学校進学者全体／各時期決定者／各複数回答）

（%）

学んでみたい分野を考え始めた時期	554	11.2	7.2	1.8	0.2		0.5	0.9	-	1.8	2.5	9.9	1.3	5.6	18.8	5.2	2.0	7.9	6.1	1.4	2.2	0.4	0.7
学んでみたい分野を決めた時期	551	9.3	7.3	0.9	0.2		0.4	0.4	0.2	1.6	2.0	11.8	0.9	5.6	16.3	5.6	2.0	14.3	6.2	1.8	3.1	0.4	0.2
どんな学校があるかを調べ始めた時期	560	16.1	13.4	3.0	0.5		0.2	2.0	0.2	3.6	9.1	13.6	1.3	5.9	9.6	9.8	3.4	6.4	9.6	7.0	10.2	-	0.9
興味を持った学校の資料請求をした時期	551	12.9	13.2	2.4	0.2		0.5	0.5	0.4	2.4	7.8	10.5	1.1	3.6	6.2	7.4	5.1	8.2	8.5	6.7	8.7	-	0.9
初めて大学・短大・専門学校を見に行った時期	552	6.3	6.2	0.5	0.2		0.2	0.7	0.2	1.1	2.4	11.8	0.4	5.3	8.7	5.1	3.6	24.3	9.2	4.2	7.2	-	0.9
最終的に入学した学校の名前を初めて知った時期	557	9.2	8.4	1.6	-		0.2	0.9	0.4	2.7	4.3	12.6	0.9	7.4	11.5	6.3	3.6	10.2	8.3	3.8	7.4	0.2	0.9
最終的に入学した学校に関心を持った時期	562	6.2	6.0	1.2	-		0.4	0.2	0.5	2.1	3.0	10.7	0.7	5.3	9.3	6.6	3.6	27.6	9.1	3.9	8.5	0.2	0.7
最終的な入学校の入試方法を知った時期	568	4.4	6.5	1.8	-		0.2	0.7	0.7	2.1	2.3	12.7	1.1	3.0	5.1	4.0	1.9	28.3	16.2	5.1	9.5	0.2	0.7
将来の仕事について（就職や職業）考えはじめた時期	547	5.3	6.0	0.7	0.4		0.5	0.5	0.2	0.9	2.0	7.9	0.9	5.9	19.0	3.7	1.6	11.0	4.0	0.5	1.5	0.5	1.6
第一志望の学校に関心を持った時期	564	8.7	8.7	1.8	0.2		-	0.5	0.2	1.6	3.9	11.0	0.5	6.2	11.2	6.9	2.5	21.8	10.5	4.1	8.0	0.2	0.9
第一志望の学校に資料請求をした時期	529	8.3	10.2	2.6	0.2		-	0.6	0.4	2.1	4.5	9.8	0.6	3.4	9.5	6.2	3.2	14.7	9.6	5.7	9.3	0.4	0.8
第一志望の学校を受験校に決めた時期	554	5.8	5.4	1.4	0.2		-	0.2	0.2	1.6	1.6	12.8	0.5	3.8	11.0	4.3	1.6	35.6	10.6	4.0	6.9	0.2	0.9
第一志望以外、併願した学校に関心を持った時期	214	8.9	8.9	2.3	1.4		-	0.9	0.5	3.3	3.7	16.8	2.3	6.1	7.9	2.3	2.8	11.7	9.8	4.2	10.7	0.9	1.4
第一志望以外、併願した学校に資料請求をした時期	214	8.9	10.3	0.9	0.5		0.5	0.9	0.5	2.3	5.1	10.7	1.9	6.1	7.0	1.9	3.3	10.3	11.7	6.5	8.9	1.4	0.9
第一志望以外、併願した学校を受験校に決めた時期	154	9.1	7.8	1.3	-		0.6	0.6	1.3	1.9	1.9	20.8	1.9	4.5	10.4	1.9	0.6	17.5	8.4	3.2	6.5	1.3	0.6

100.0　項目別に最もポイントが高い　　100.0　項目別に２～５番目にポイントが高い

影響が強いのも特徴だ。

〈専門学校進学者〉は、図表4を見ると、大学進学者と同様に高2の夏から検討行動を開始するが、入学校を高校2年までに決めているのは5人に1人にとどまる（大学進学者は29.5％）。しかし、高校3年の4月から検討行動が加速し、4月に入学校に関心を持ち、夏に決定するという短期的な行動が特徴だ。高校3年の1学期が大きなポイントだといえる。また、1月以降も、受験の結果等により入学校決定者が増加するため（1月～3月で全体の約10%が決定）、年明けにも広報ニーズがある。

利用メディアに関しては短大と同様、進学情報誌で検討してオープンキャンパスで決めるという流れだ。専門学校には偏差値という選択軸がないため、実際に行って授業を体験し、施設を見て決める、というのが専門学校進学者の特徴といえる。また、参加校数も大学と比較して少ない（大学3.8校、専門学校3.5校）ため、行く前に絞り込んで参加し、そこで強い影響を受けて決定する傾向がある。オープンキャンパス参加リストの中には必ず入っておきたい。

進路選択プロセスと影響メディアの詳細は図表5にまとまっているので参照されたい。

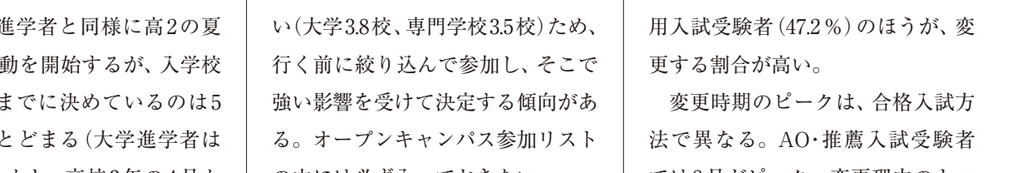
志望校変更はAO・推薦は高3の夏、一般・センターは年明け

高校3年時に志望校を変更するのは全体の44.6％（図表6）。図表にはないが、経年でみると2回連続減少（2011年 59.0% → 2013年 46.7％ → 2016年44.6％）しており、高校3年時に志望校を変更する割合は減少傾向にある。文系（変更あり41.4％）より理系（49.3％）、AO・推薦入試受験者（42.0％）より、一般・センター利用入試受験者（47.2％）のほうが、変更する割合が高い。

変更時期のピークは、合格入試方法で異なる。AO・推薦入試受験者では8月がピーク。変更理由のトップはオープンキャンパスであることから、AO・推薦入試受験者にとってはオープンキャンパスの内容が志願度を大きく左右するといえる。また、9～10月には「高校の指定校推薦の一覧を見て」「高校での自分の成績を見て」等も高い。

一方、一般・センター利用入試受験者の変更ピークは1月。センター試験の成績の影響となっている。9～10月に「模試の成績を見て」、「塾・予備校の先生からのアドバイス」による変更も高くなっており、全体的に成績による変更が主だといえる。

図表6　高校3年時における第一志望校変更時期（大学進学者全体／複数回答）



		調査数	変更なし	変更あり	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大学進学者全体（2016年）		3051	50.8	44.6	3.0	2.4	3.4	5.5	8.6	4.9	4.8	3.1	3.9	10.7	1.3	0.4
男女別	男子	1266	52.0	43.0	2.4	2.0	2.2	4.2	6.8	4.7	5.1	3.1	4.7	12.2	1.8	0.6
	女子	1772	50.0	45.7	3.3	2.6	4.3	6.4	9.8	4.9	4.5	3.2	3.3	9.6	0.9	0.3
入試方法別	一般、センター・計	1701	48.5	47.2	2.6	1.6	2.2	3.2	7.2	3.2	5.1	3.6	5.6	17.6	2.1	0.6
	AO、推薦入試・計	1194	53.3	42.0	3.5	3.3	5.3	8.9	10.7	7.1	4.1	2.7	1.7	1.2	0.2	0.1
文理別	文系	1695	54.3	41.4	3.0	2.5	4.1	5.7	8.8	4.9	4.2	2.7	3.2	7.3	1.2	0.2
	理系	1220	46.5	49.3	3.0	2.0	2.4	5.2	7.7	4.8	5.4	3.8	4.9	16.0	1.4	0.8
＜当月　累計＞					3.0	5.4	8.8	14.3	22.9	27.8	32.6	35.7	39.6	50.3	51.6	52.0

変更理由														
	1位	塾・予備校の先生	行きたい学部・学科が変わった	友人・先輩	進学説明会・ガイダンス	オープンキャンパス	指定校推薦の一覧	進学説明会・ガイダンス	行きたい学校が変わった	模試の成績	センター試験の成績	友人・先輩	高校での自分の成績
	2位	行きたい学部・学科が変わった	進学説明会・ガイダンス	興味のある職業・分野が変わった・家族	オープンキャンパス	興味のある職業・分野が変わった	家族	経済的な理由	友人・先輩	家族	興味のある職業・分野が変わった	センター試験の成績	行きたい学校が変わった
	3位	友人・先輩	興味のある職業・分野が変わった	経済的な理由	高校の先生	経済的な理由	模試の成績	高校の先生	指定校推薦の一覧を見て	塾・予備校の先生	塾・予備校の先生	塾・予備校の先生	行きたい学部・学科が変わった

100.0「大学進学者全体（2016年）」より5ポイント以上高い　100.0「進学者全体（2016年）」より5ポイント以上低い大学

オープンキャンパス・学校見学会

高校1年時、2年時の早期参加が進む

以上で見てきたように、志望校の関心や決定に大きな影響を及ぼすオープンキャンパスは、高校生にとってどのような位置づけなのだろうか。

オープンキャンパスの参加率（図表7）は94.9％で、2回連続で増加した（93.1%→94.4％→94.9％）。また、早期の参加率も増加の一途で、高校1年時（33.0%→35.4％→44.0％）、高校2年時（61.5%→63.8％→68.1％）と増加。反対に高校3年時の割合は、2回連続で減少している。

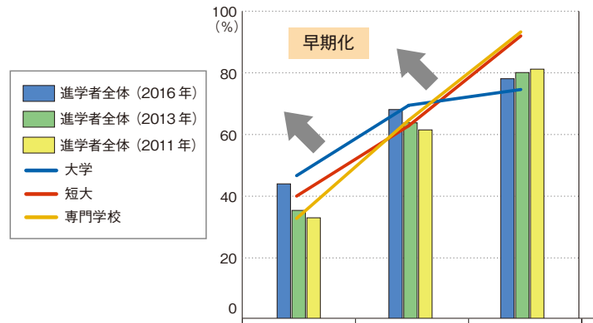
男女別に見ると、全ての学年で女子が男子を上回っており、女子のほうがオープンキャンパス参加に積極的である。なかでも高校2年時の参加率は、男女で14.5ポイントの開きがある。

入試方法もオープンキャンパス参加の時期に大きな影響を持つ。一般・センター利用入試受験者の早期の参加率が、高校1年時（48.4％）、高校2年時（69.2％）と高く、高校3年時の参加率は65.6%と低い。オープンキャンパスは重要な情報源なので、受験勉強が本格化する前に早期で参加しておきたいと考えるか、もしくは高校の指導の影響も考えられる。一般・センター利用入試受験者のイベントにおけるアプローチは早期が有効といえそうだ。反対にAO・推薦入試受験者は早期の参加率が低く、高校3年時に9割以上が集中する。

図表にはないが、平均参加校数は3.7校と約4校。出願平均校数が約3校なので、オープンキャンパスの参加校に入らないと出願校には選ばれないということになる。参加が当たり前の時代だからこそ、より一層のコンテンツの差別化が求められる。

また、図表にはないが、同伴者に関しては、「友達」が2回連続減少しているのに対し（2011年69.6％→2013年61.7％→2016年58.4％）、保護者は2回連続上昇（43.4%→43.7％→45.8％）。特に女子は半数以上（53.2％）が保護者と参加しているため、保護者向けのコンテンツも別途検討す

図表7　学校主催イベント参加経験（進学者全体／複数回答）



		調査数	高校1年生	高校2年生	高校3年生	高校3年間TOTAL
進学者全体（2016年）		3844	44.0	68.1	78.1	94.9
進学者全体（2013年）		4250	35.4	63.8	80.1	94.4
進学者全体（2011年）		9681	33.0	61.5	81.2	93.1
最終進路別	大学	3051	46.5	69.2	74.3	94.2
	短大	203	39.9	62.6	91.6	98.0
	専門学校	590	32.7	64.4	92.9	97.1
高校所在エリア別	北海道	146	30.8	59.6	76.0	93.2
	東北	276	44.6	64.5	78.6	95.7
	北関東・甲信越	366	50.3	70.8	79.2	96.7
	南関東	1106	52.8	75.6	81.6	95.7
	東海	465	34.2	63.2	79.8	94.4
	北陸	84	29.8	67.9	77.4	94.0
	関西	737	43.7	68.0	78.8	95.8
	中国・四国	284	44.4	60.2	75.0	91.9
	九州・沖縄	365	32.3	61.9	66.0	91.8
	大都市圏	1954	47.0	71.8	80.7	95.6
	大都市圏以外	1875	40.9	64.4	75.5	94.1
男女別	男子	1430	37.6	59.0	69.3	90.2
	女子	2398	47.8	73.5	83.4	97.6
入試方法別	一般、センター・計	1851	48.4	69.2	65.6	92.7
	AO、推薦入試・計	1800	39.5	67.7	90.9	97.6
文理別	文系	2105	42.9	68.6	79.8	95.1
	理系	1432	48.0	69.5	73.0	94.3

100.0　「進学者全体（2016年）」より5ポイント以上高い　100.0　「進学者全体（2016年）」より5ポイント以上低い
※大都市圏：1都3県（南関東）、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県　※2011年は東北を含まない数字

る必要があるだろう。

最後に、進学先校主催イベント参加時の志望度合いを尋ねると、約8割が志望校と想定していた（図表8）。しかし、「第一志望だった」のは半数を切っており、残りの半数は他校との比較検討の意味合いで参加していることが分かる。

エリア別では、大都市圏（43.2％）に比べ、大都市圏以外（54.1％）のほうが高く、中でも南関東の第一志望度合いは最も低い（40.5％）。

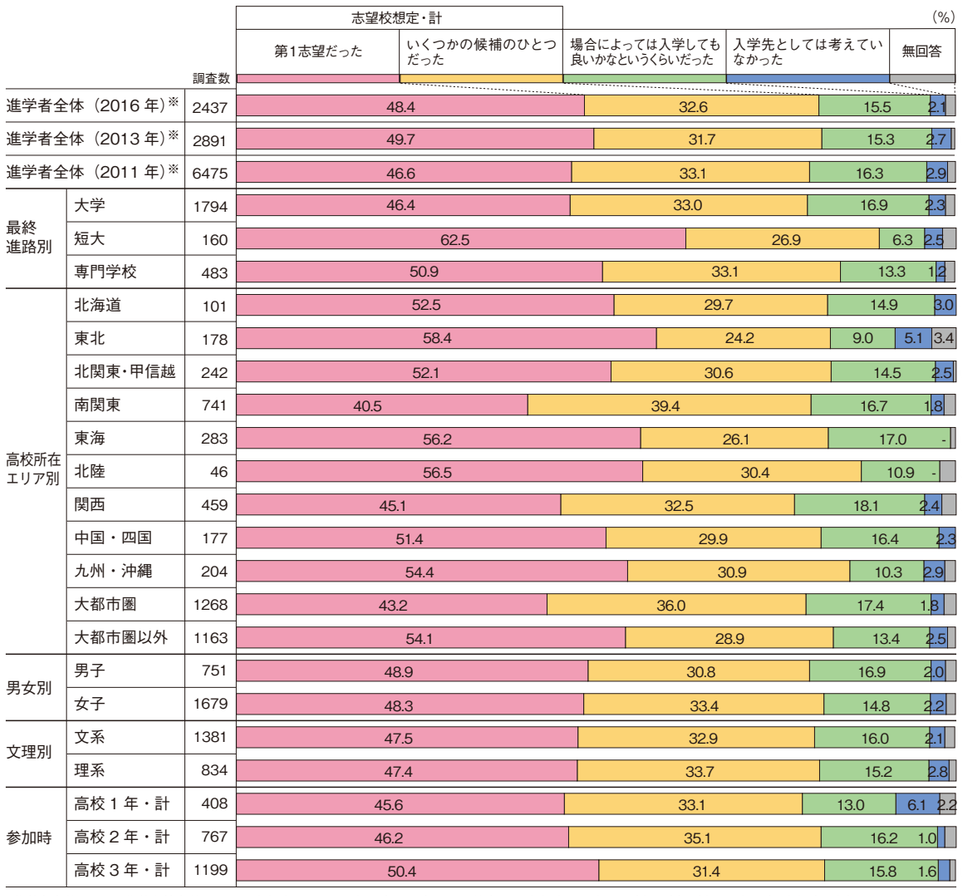
大学主催イベントで伝わる「雰囲気」伝わっていない「教育内容」

次に、大学・専門学校進学者別にイベントで知りたかったことと、良かったところを比較する。まず大学進学者だが、知りたかったことのトップは「キャンパスの雰囲気」（68.8％）、次いで「学校で勉強できる内容」（59.6％）、「在校生の様子や雰囲気」（51.6％）であった（図表9）。

男女別では、全体的に女子が高いが、特に「キャンパスの雰囲気」「在校生の様子や雰囲気」で女子が男子をそれぞれ8.5ポイント、15.1ポイント上回っている。女子にとってキャンパスの雰囲気や、特に在校生の雰囲気が自分とマッチしているかは重要なポイントだ。また、「入試の情報」「学費等の詳しい情報」等も女子の関心が高い。

AO・推薦入試受験者は、一般・センター試験利用受験者よりも「取れる資格」を重視。また、文系より理系のほ

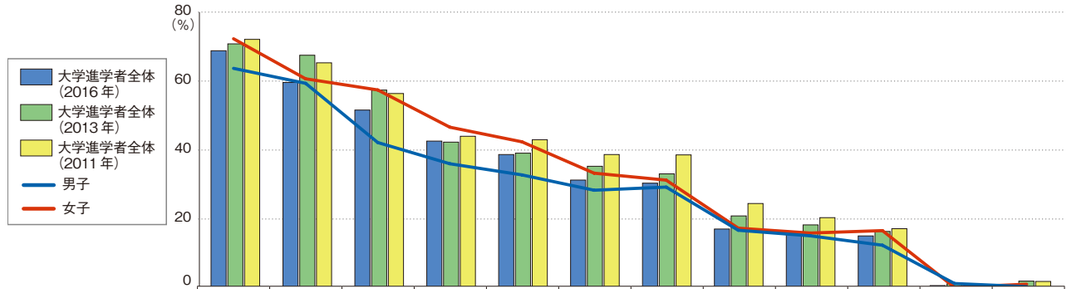
図表8　進学先校主催イベント参加時の志望度合い（進学者全体のうち、進学先校主催イベント参加者／単一回答）



		調査数	第1志望だった	いくつかの候補のひとつだった	場合によっては入学しても良いかなというくらいだった	入学先としては考えていなかった	無回答	志望校想定・計
進学者全体（2016年）※		2437	48.4	32.6	15.5	2.1	1.4	81.0
進学者全体（2013年）※		2891	49.7	31.7	15.3	2.7	0.5	81.5
進学者全体（2011年）※		6475	46.6	33.1	16.3	2.9	1.1	79.7
最終進路別	大学	1794	46.4	33.0	16.9	2.3	1.3	79.4
	短大	160	62.5	26.9	6.3	2.5	1.9	89.4
	専門学校	483	50.9	33.1	13.3	1.2	1.4	84.1
高校所在エリア別	北海道	101	52.5	29.7	14.9	3.0	-	82.2
	東北	178	58.4	24.2	9.0	5.1	3.4	82.6
	北関東・甲信越	242	52.1	30.6	14.5	2.5	0.4	82.6
	南関東	741	40.5	39.4	16.7	1.8	1.6	79.9
	東海	283	56.2	26.1	17.0	-	0.7	82.3
	北陸	46	56.5	30.4	10.9	-	2.2	87.0
	関西	459	45.1	32.5	18.1	2.4	2.0	77.6
	中国・四国	177	51.4	29.9	16.4	2.3	-	81.4
	九州・沖縄	204	54.4	30.9	10.3	2.9	1.5	85.3
	大都市圏	1268	43.2	36.0	17.4	1.8	1.7	79.2
	大都市圏以外	1163	54.1	28.9	13.4	2.5	1.1	83.0
男女別	男子	751	48.9	30.8	16.9	2.0	1.5	79.6
	女子	1679	48.3	33.4	14.8	2.2	1.3	81.7
文理別	文系	1381	47.5	32.9	16.0	2.1	1.4	80.4
	理系	834	47.4	33.7	15.2	2.8	1.0	81.1
参加時	高校１年・計	408	45.6	33.1	13.0	6.1	2.2	78.7
	高校２年・計	767	46.2	35.1	16.2	1.0	1.6	81.2
	高校３年・計	1199	50.4	31.4	15.8	1.6	0.8	81.7

※進学者全体のうち、進学先校主催イベント参加者　※2011年は東北を含まない数字　※大都市圏：1都3県（南関東）、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県

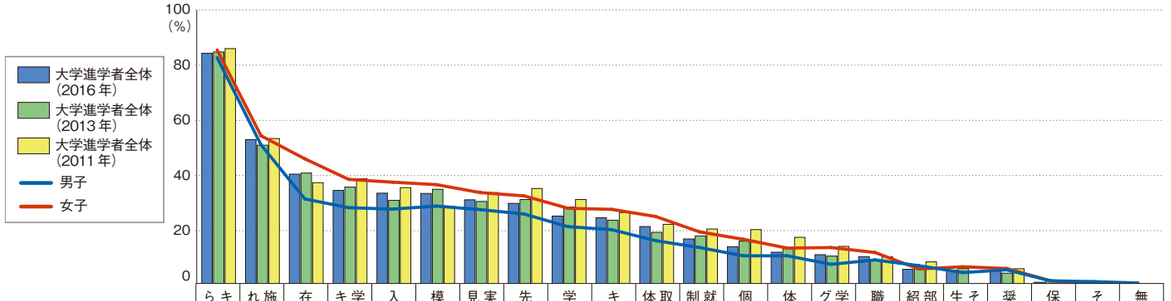
図表9　【大学進学者】進学先校主催イベントで知りたかったこと（大学進学者全体のうち、進学先校主催イベント参加者／複数回答）



		調査数	キャンパスの雰囲気	学校で勉強できる内容	在校生の様子や雰囲気	入試の情報	実習室や教室等の雰囲気	取れる資格	就職状況	どんな部活・サークルがあるか	どんな先生がいるか	学費等の詳しい情報	特に知りたいことはなかった	その他
大学進学者全体※	2016年	1794	68.8	59.6	51.6	42.6	38.7	31.3	30.4	17.1	15.6	15.1	0.7	0.9
	2013年	2031	70.8	67.5	57.4	42.3	39.1	35.3	33.1	20.9	18.3	16.4	1.2	2.0
	2011年	4680	72.1	65.3	56.4	44.0	43.0	38.7	38.6	24.5	20.4	17.2	0.9	1.9
男女別	男子	628	63.2	58.9	41.9	35.8	32.6	28.2	29.1	16.7	15.1	12.4	1.4	0.5
	女子	1160	71.7	60.2	57.0	46.3	42.1	33.1	31.1	17.3	15.9	16.6	0.3	1.2
入試方法別	一般、センター・計	769	69.6	56.3	55.0	38.9	42.3	24.3	27.0	11.8	10.7	10.7	1.0	0.9
	AO、推薦入試・計	933	68.8	61.3	49.7	46.1	36.4	37.0	32.5	20.7	19.5	18.5	0.3	1.0
文理別	文系	1038	70.6	61.8	53.7	44.6	34.6	32.8	30.0	17.6	15.3	15.9	0.7	1.1
	理系	668	66.0	55.7	48.5	41.0	46.1	28.7	32.0	14.7	15.4	13.9	0.6	0.9

100.0　「大学進学者全体（2016年）」より5ポイント以上高い　　100.0　「大学進学者全体（2016年）」より5ポイント以上低い
※「大学進学者全体（2016年）」の降順ソート　※大学進学者全体のうち、進学先校主催イベント参加者　※2011年は東北を含まない数字

図表10　【大学進学者】進学先校主催イベントの良かったところ（大学進学者全体のうち、進学先校主催イベント参加者／複数回答）



		調査数	キャンパスを見られたこと	施設・設備を見られたこと	在校生の話・対応	学部学科・カリキュラムの説明	入試の説明	模擬授業	実習室や教室を見られたこと	先生の話・対応	学食体験	キャンパスツアー	取れる資格・支援体制の説明	就職状況・支援体制の説明	個別相談	体験実習	学校オリジナルグッズプレゼント	職員の話・対応	部活・サークルの紹介	その学校の卒業生の話・対応	奨学金の説明	保護者コーナー	その他	無回答
大学進学者全体※	2016年	1794	84.3	53.0	40.5	34.6	33.6	33.5	31.2	29.9	25.3	24.7	21.5	17.0	14.2	12.2	11.3	10.6	6.0	5.7	5.6	1.3	0.6	0.2
	2013年	2031	84.8	51.0	40.9	35.8	31.0	35.0	30.6	31.3	28.6	23.8	19.4	18.1	16.2	13.5	10.8	9.1	6.6	6.3	4.6	1.9	0.8	0.4
	2011年	4680	86.0	53.4	37.4	38.8	35.6	28.8	33.8	35.3	31.3	26.6	22.3	20.6	20.4	17.6	14.3	10.5	8.7	*	6.2	1.5	1.0	0.2
男女別	男子	628	82.5	50.8	31.1	27.9	27.4	28.5	27.2	25.6	21.0	19.9	15.9	13.4	10.4	10.4	7.3	8.9	6.8	4.3	5.3	1.3	1.0	0.5
	女子	1160	85.3	54.1	45.7	38.2	37.2	36.3	33.4	32.2	27.7	27.3	24.7	19.1	16.4	13.2	13.4	11.6	5.6	6.4	5.8	1.3	0.4	0.1
入試方法別	一般、センター・計	769	86.9	53.2	35.4	32.2	31.7	26.7	30.6	23.8	23.5	22.6	15.7	13.3	9.8	8.3	10.1	8.3	4.4	4.2	3.9	0.5	0.7	0.3
	AO、推薦入試・計	933	83.0	52.7	44.7	36.2	35.9	39.1	32.2	35.4	26.6	26.5	26.4	19.9	18.1	14.8	12.6	12.5	7.1	6.5	6.6	1.8	0.6	0.2
文理別	文系	1038	86.0	52.2	40.9	37.1	36.1	39.0	25.9	31.5	27.1	25.7	22.1	18.3	14.7	8.3	12.3	11.0	6.8	6.3	6.1	1.3	0.7	0.1
	理系	668	82.8	54.6	39.4	31.1	30.2	25.4	40.4	26.6	21.3	22.9	20.5	15.7	13.3	17.8	9.4	10.5	4.8	4.8	4.9	0.9	0.3	0.3

100.0　「大学進学者全体（2016年）」より5ポイント以上高い　　100.0　「大学進学者全体（2016年）」より5ポイント以上低い
※「大学進学者全体（2016年）」の降順ソート　※大学進学者全体のうち、進学先校主催イベント参加者　※2011年は東北を含まない数字　＊該当項目なし

うが「実習室や教室等の雰囲気」（文系34.6％、理系46.1％）と、教育施設に注目する傾向がある。

これに対し、イベントで良かったところのトップは「キャンパスを見られたこと」（84.3％）、次いで「施設・設備を見られたこと」（53.0％）「在校生の話・対応」（40.5％）が続く（図表10）。

男女別では、ほとんどの項目で女子が男子を上回っており、女子はより多くの情報を受け取って帰るようだ。特に「在校生の話・対応」「学部学科・カリキュラムの説明」で、女子のポイントが高い（各45.7％、38.2％）。

「良かったところ」を、前述の「知りたかったこと」と比較すると、トップの「キャンパスの雰囲気」については期待に応えられているが、知りたかったことの2位であった「学校で勉強できる内容」にあたる、「学科・カリキュラムの説明」や「模擬授業」に関してはトップ3に入っていない。

学部や学科の名称や内容、入試が多様化し、高校生にとって各大学の特色が分かりづらくなっている。高校教員も、生徒に相談されても全てを把握するのは至難の業で、「オープンキャンパスに行って見てきなさい」という指導につながる。その結果が、「教育内容を知りたい」＝ほかの学校との違いを知りたい、という高校生の声に表れているが、まだまだ伝わりきっていないということが言えるのかもしれない。

専門学校主催イベントの良かったところは、「在校生や先生の話」が増加

専門学校進学者の場合、イベントで知りたかったことのトップは「学校で勉強できる内容」（64.8％）、次いで「実習室や教室等の雰囲気」（59.2％）、「在校生の様子や雰囲気」（49.7％）と続く（図表11）。実習室、資格や就職の情報が上位に入り、キャンパスの雰囲気が低い点は、大学と異なっている。

男女別では、「学校で勉強できる内容」「取れる資格」については男子のほうが高く、それぞれ約10ポイント女子を上回っている。女子は、実習室や教室・キャンパス・在校生の雰囲気や、どんな先生がいるかという点に注目。また、大学進学者同様、入試や学費の情報も求めている。「何を学んでどうなれるのか」に注目する男子に対し、雰囲気や構成要員から自分の居場所を探す女子。大学進学者の場合、男子が女子を上回る項目が一つもなかったが、専門学校進学者男子は比較的目的意識を持って参加していることが分かる。

イベントで良かったところのトップは、「施設・設備を見られたこと」（58.2％）、次いで「実習室や教室を見られたこと」（54.2％）、「キャンパスを見られたこと」（53.0％）とハード面が上位を占めた（図表12）。

男女別では、全体的に女子のスコアが高く、特に施設や設備・実習室を見られたこと、先生や在校生の話が高い。特に「在校生の話・対応」は男女の差が大きい項目だ（男子32.1％・女子54.3％）。男子のスコアが高いのは「取れる資格・支援体制の説明」「就職状況・支援体制の説明」等となっている。

知りたかったことの1位の勉強内容に対応する「学部学科・カリキュラムの説明」は9位、「体験実習」が6位と、こちらも期待と評価のギャップがある。

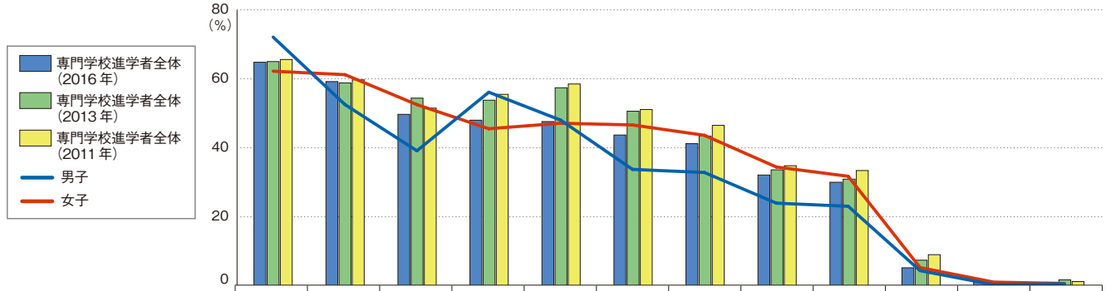
経年では、2回連続増加しているのが「在校生の話・対応」（42.3％→45.4％→49.1％）、「先生の話・対応」も前回より増加。前回4位だった「体験実習」を逆転しており、構成要員への注目が高まっていることが分かる。

オープンキャンパスは確認の場からコミュニケーションの場へ

かつては学校の施設や授業を一方的に体験・確認する場であったオープンキャンパスも、今では在校生や先生の参加が増え、双方向コミュニケーションの場となっている。昨年実施したリクルート『高校生価値意識調査』で、高校生に学校に対する好感度が上がった経験を聞いたところ、「先輩たちの目標と自分の夢が一致して、この学校で頑張ろうと思えた」「自分のやりたいことがこの学校でできると大学の先生に背中を押された」等、「自分のやりたいこと」と先生や学生から伝わる「大学の特色」の合致に共感を覚えた、という声が多くあった。

高校生がオープンキャンパスに求めるのは、各学校の教育内容の特色や個性の確認だ。イベントの参加者に対しては、学校側の誰に聞いても同じ学校の特色が話せるよう、共通言語化・認識化しておきたい。

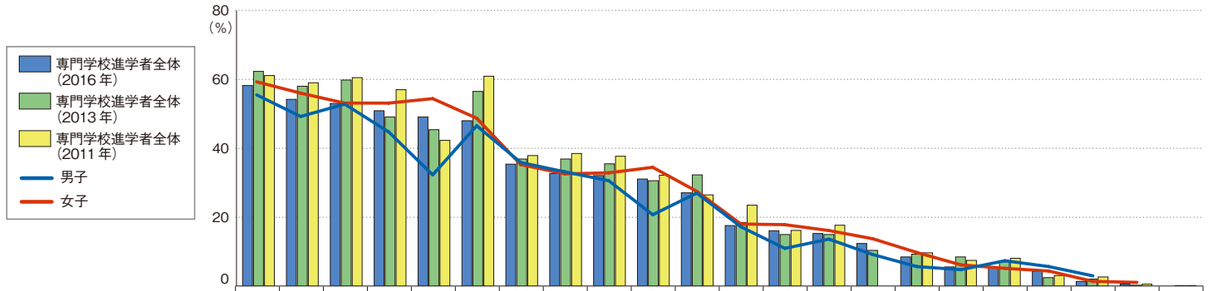
図表11　【専門学校進学者】進学先校主催イベントで知りたかったこと（専門学校進学者全体のうち、進学先校主催イベント参加者／複数回答）



		調査数	学校で勉強できる内容	実習室や教室等の雰囲気	在校生の様子や雰囲気	取れる資格	就職状況	キャンパスの雰囲気	学費等の詳しい情報	入試の情報	どんな先生がいるか	どんな部活・サークルがあるか	特に知りたいことはなかった	その他
専門学校進学者全体※	2016年	483	64.8	59.2	49.7	48.0	47.6	43.7	41.2	32.1	30.0	5.2	1.0	1.0
	2013年	634	65.0	58.8	54.4	53.8	57.4	50.6	43.4	33.6	30.9	7.4	0.5	1.7
	2011年	1240	65.6	59.7	51.5	55.5	58.5	51.1	46.5	34.8	33.4	9.0	0.8	1.2
男女別	男子	112	72.3	52.7	39.3	56.3	48.2	33.9	33.0	24.1	23.2	4.5	-	0.9
	女子	370	62.4	61.4	52.7	45.7	47.3	46.8	43.8	34.6	31.9	5.4	1.4	1.1
合格入試方法別	一般入試	73	53.4	60.3	54.8	35.6	32.9	47.9	39.7	38.4	35.6	4.1	4.1	2.7
	AO、推薦入試・計	389	66.1	59.4	49.1	49.9	50.6	44.0	41.6	31.6	28.5	5.7	0.5	0.8
文理別	文系	240	68.3	59.6	51.7	48.3	52.9	46.3	42.5	31.3	29.6	3.8	0.4	-
	理系	139	61.9	61.9	50.4	45.3	38.8	38.8	37.4	41.0	28.1	5.8	1.4	1.4

100.0　「専門学校進学者全体（2016年）」より5ポイント以上高い　　100.0　「専門学校進学者全体（2016年）」より5ポイント以上低い
※「専門学校進学者全体（2013年）」の降順ソート　※専門学校進学者全体のうち、進学先校主催イベント参加者　※2011年は東北を含まない数字

図表12　【専門学校進学者】進学先校主催イベントの良かったところ（専門学校進学者全体のうち、進学先校主催イベント参加者／複数回答）



		調査数	施設・設備を見られたこと	実習室や教室を見られたこと	キャンパスを見られたこと	先生の話・対応	在校生の話・対応	体験実習	取れる資格・支援体制の説明	就職状況・支援体制の説明	学科・カリキュラムの説明	入試の説明	模擬授業	個別相談	奨学金の説明	職員の話・対応	その学校の卒業生の話・対応	学校オリジナルグッズ・プレゼント	キャンパスツアー	学食体験	保護者コーナー	部活・サークルの紹介	その他	無回答
専門学校進学者全体※	2016年	483	58.2	54.2	53.0	50.9	49.1	48.0	35.4	32.7	32.1	31.1	27.1	17.6	16.1	15.3	12.4	8.5	5.6	5.4	4.3	1.4	0.6	-
	2013年	634	62.3	58.0	59.8	49.1	45.4	56.5	36.9	36.9	35.5	30.6	32.3	18.5	15.0	15.0	10.4	9.3	8.5	7.1	2.5	2.1	0.3	0.2
	2011年	1240	61.1	59.0	60.5	57.0	42.3	60.9	37.9	38.5	37.7	32.2	26.5	23.5	16.2	17.7	＊	9.7	7.5	8.1	3.1	2.7	0.6	0.2
男女別	男子	112	55.4	49.1	52.7	44.6	32.1	46.4	35.7	33.0	30.4	20.5	26.8	17.0	10.7	13.4	8.9	5.4	4.5	7.1	5.4	2.7	-	-
	女子	370	59.2	55.9	53.0	53.0	54.3	48.6	35.1	32.4	32.7	34.3	27.3	17.8	17.6	15.9	13.5	9.5	5.9	4.9	4.1	1.1	0.8	-
合格入試方法別	一般入試	73	58.9	46.6	53.4	53.4	54.8	43.8	30.1	30.1	24.7	35.6	21.9	15.1	6.8	15.1	12.3	4.1	6.8	4.1	4.1	1.4	-	-
	AO、推薦入試・計	389	58.6	55.8	53.2	51.2	47.8	49.4	36.2	33.2	33.9	30.6	29.0	18.0	18.5	15.2	13.1	9.5	5.4	5.9	4.4	1.5	0.8	-
文理別	文系	240	58.3	55.8	52.5	52.9	48.8	48.3	37.5	37.9	36.7	33.3	29.2	18.8	14.6	16.7	14.6	9.2	5.0	5.8	5.0	0.8	-	-
	理系	139	59.7	51.8	54.0	43.2	48.2	47.5	30.9	26.6	28.1	31.7	27.3	18.7	17.3	12.2	10.8	5.8	5.0	6.5	2.9	1.4	2.2	-

100.0　「専門学校進学者全体（2016年）」より5ポイント以上高い　　100.0　「専門学校進学者全体（2016年）」より5ポイント以上低い
※「専門学校進学者全体（2016年）」の降順ソート　※専門学校進学者全体のうち、進学先校主催イベント参加者　※2011年は東北を含まない数字　＊該当項目なし

志望校選択時の重視項目

学びたい学部・学科に続くのは男子は「就職に有利」女子は「校風や雰囲気」

進学者全体の志望校検討時の重視項目は、1位「学びたい学部・学科・コースがあること」(65.6％)。次いで「校風や雰囲気が良いこと」(38.6％)「就職に有利であること」(37.5％)となった(図表13)。

前回と比較すると、前回3位の「自分の興味や可能性が広げられること」(35.8％)が5位となり、前回4位の「就職に有利であること」が3位に、前回6位の「資格取得に有利であること」が4位に上昇している。

最終進路別では、専門学校と短大で「就職に有利であること」「資格取得に有利であること」「自宅から通えること」の割合が高い。専門学校のみでは、「専門分野を深く学べること」「卒業後に社会で活躍できること」等が高く、専門分野を深く学んで就職や資格取得に結び付けたいという傾向が顕著だ。また、「交通の便が良いこと」「学費が高くないこと」「寮や奨学金等が充実していること」も高く、経済面にも考慮して検討していることが分かる。

エリア別では、大都市圏・大都市圏以外共に1位は「学びたい学部・学科・コースがあること」で同じだが、大都市圏では2位が「自宅から通えること」、3位が「校風や雰囲気が良いこと」であるのに対し、大都市圏以外では2位が「資格取得に有利であること」、3位が「就職に有利であること」となっており、大都市圏以外のほうが資格や就職等、出口の情報を重視することがわかる。

また、そのほかにも大都市圏では、「キャンパスがきれいであること」「伝統や実績があること」「有名であること」「周囲の人からの評判が良いこと」といったブランド性や、「交通の便が良い」等も高い。大都市圏以外は「学費が高くないこと」「寮や奨学金等が充実していること」等、経済的な項目が高い。

男女別でも、1位は「学びたい学部・学科・コースがあること」で同じだが、男子では2位が「就職に有利であること」、3位が「自分の興味や可能性が広げられること」であるのに対し、女子では2位が「校風や雰囲気が良いこと」、3位が「資格取得に有利であること」となっている。

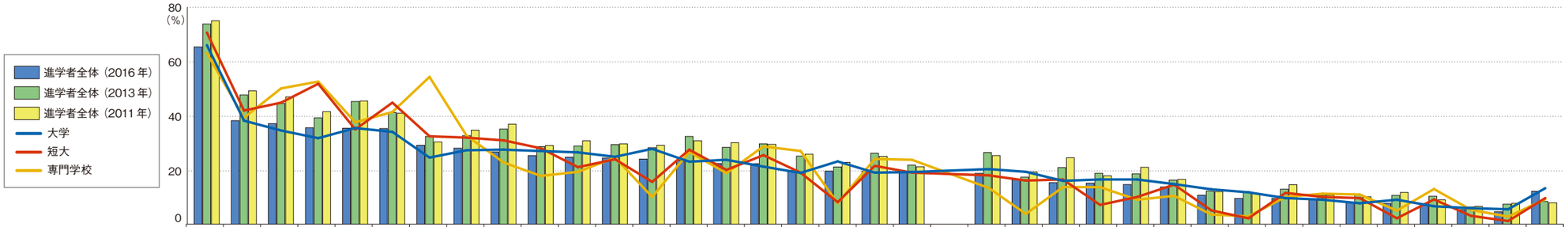
また、文理別では、「校風や雰囲気が良いこと」「自宅から通えること」は文系が高く、理系は「専門分野を深く学べる」「学習設備や環境が整っていること」が高い。理系のほうが専門性が高い分、学ぶ内容やハード面を重視していると言える。

高校生は校風、保護者は卒業後、教員は面倒見・教育内容

この重視項目を、保護者や高校の教員と比較したものが図表14である(保護者と高校の教員については別調査の同設問)。

全体的なスコアとして保護者が高く、保護者は様々な面を考慮に入れて検討していることが分かる。1位は3者とも共通で、「学びたい学部・学科・コースがあること」。2位は、高校生は「校風や雰囲気」、保護者と教員は「子ども・生徒の興味や可能

図表13　志望校検討時の重視項目(進学者全体／複数回答)



		調査数	学びたい学部・学科・コースがあること	校風や雰囲気が良いこと	就職に有利であること	資格取得に有利であること	自分の興味や可能性が広げられること	自宅から通えること	専門分野を深く学べること	学習設備や環境が整っていること	学生生活が楽しめること	キャンパスがきれいであること	将来の選択肢が増えること	勉強するのに良い環境であること	偏差値が自分に合っていること	教育方針・カリキュラムが魅力的であること	伝統や実績があること	卒業後に社会で活躍できること	交通の便が良いこと	有名であること	社会で役立つ力が身につくこと	学費が高くないこと	入試方法が自分に合っていること	クラブ・サークル活動が盛んであること	活気があり感じがすること	教育内容のレベルが高いこと	周囲の人からの評判が良いこと	教養が身につくこと	国際的なセンスが身につくこと	学生の学力が高いこと	学生の面倒見が良いこと	教授・講師陣が魅力的であること	先輩・卒業生が魅力的であること	学校が発展していく可能性があること	寮や奨学金等が充実していること	遊びに行くのに便利な立地であること	規模が大きいこと	無回答
進学者全体(2016年)		3844	65.6	38.6	37.5	36.0	35.8	35.7	29.6	28.5	27.1	25.8	25.2	24.9	24.5	24.0	22.9	22.8	20.3	20.1	20.1	20.1	19.3	16.9	15.9	15.7	15.2	14.3	11.3	10.1	10.1	9.7	8.6	8.3	8.0	6.0	5.2	12.7
進学者全体(2013年)		4250	74.0	48.0	44.9	39.6	45.6	41.6	32.8	33.1	35.5	29.1	29.3	29.8	28.7	32.8	28.8	30.1	25.6	21.6	26.7	22.3	26.9	17.9	21.4	19.3	19.1	16.8	12.8	12.5	13.5	11.4	11.5	11.2	10.9	7.0	8.0	9.0
進学者全体(2011年)		9681	75.2	49.5	47.3	41.9	45.8	41.3	30.8	35.1	37.3	29.5	31.2	30.1	29.6	31.2	30.5	29.9	26.3	23.3	25.5	21.7	25.8	19.8	25.0	18.4	21.5	17.1	12.6	11.8	15.1	11.3	10.7	12.3	9.6	7.2	8.3	8.5
最終進路別	大学	3051	65.8	38.2	34.6	31.8	35.5	34.1	24.7	27.4	27.6	27.1	26.6	25.0	27.9	23.2	23.9	21.4	19.1	23.3	19.2	19.4	20.5	19.5	16.2	16.7	16.7	15.0	13.1	12.0	9.9	9.3	8.0	9.3	6.9	6.2	5.8	13.5
	短大	203	70.4	41.9	44.8	51.7	35.0	44.8	32.5	32.0	31.0	28.1	21.2	24.1	15.8	27.6	20.2	25.6	19.2	8.4	21.7	19.2	18.2	16.3	16.7	7.4	10.3	14.8	5.4	2.5	11.8	10.3	9.9	2.5	9.4	3.4	1.5	9.9
	専門学校	590	62.9	39.3	50.0	52.5	37.6	41.4	54.2	32.7	22.9	18.0	19.5	24.7	10.3	26.8	19.0	28.8	27.1	8.0	24.2	23.9	13.6	4.1	13.9	13.9	9.3	10.7	3.9	3.2	10.3	11.5	11.2	5.3	13.2	5.6	3.1	9.5
高校所在エリア別	北海道	146	69.2	42.5	43.2	38.4	43.8	23.3	37.0	32.9	34.2	29.5	22.6	28.1	24.0	23.3	17.1	21.9	21.2	10.3	24.7	20.5	20.5	20.5	15.1	15.8	11.6	15.1	10.3	7.5	6.2	11.0	13.0	7.5	8.9	6.8	2.7	14.4
	東北	276	74.6	35.5	42.0	42.4	43.5	23.9	35.1	32.6	31.5	27.2	28.6	28.3	25.7	30.4	21.4	26.1	16.7	14.1	26.8	29.0	18.8	18.8	17.4	14.1	14.9	17.8	10.5	8.3	8.7	8.7	8.7	9.8	15.2	4.3	4.0	6.9
	北関東・甲信越	366	69.4	38.0	38.5	38.8	35.2	26.2	30.6	32.8	26.5	21.0	28.4	26.8	29.8	26.8	24.6	24.0	16.1	18.3	19.4	23.8	15.0	19.4	15.8	14.8	10.1	15.8	12.0	10.9	9.6	11.2	7.7	7.1	10.1	4.9	5.2	9.8
	南関東	1106	62.8	41.8	36.2	32.0	35.2	46.2	27.7	29.5	25.8	29.8	24.2	25.4	25.1	25.9	25.6	22.8	25.9	24.6	18.9	15.4	22.0	15.9	17.5	17.6	16.4	14.6	11.9	10.6	12.7	11.1	8.8	7.5	4.9	7.2	5.7	14.9
	東海	465	67.7	35.7	39.1	39.6	33.5	35.1	30.3	28.4	27.1	26.9	24.9	24.9	24.7	22.4	24.9	23.7	21.1	17.4	20.2	19.8	16.8	16.3	13.3	14.8	14.4	13.8	10.5	10.1	10.3	11.2	8.6	7.3	6.7	6.2	4.1	12.5
	北陸	84	63.1	26.2	38.1	39.3	36.9	20.2	26.2	17.9	25.0	15.5	26.2	22.6	23.8	20.2	21.4	17.9	8.3	20.2	11.9	17.9	19.0	16.7	14.3	7.1	15.5	8.3	8.3	9.5	4.8	3.6	7.1	6.0	4.8	3.6	4.8	8.3
	関西	737	63.2	42.3	36.5	32.0	33.4	41.1	26.7	25.9	27.8	25.6	26.5	21.8	22.8	20.1	23.1	21.3	20.5	25.4	19.1	17.0	17.8	15.2	16.4	16.4	17.5	13.0	12.9	11.7	9.2	8.1	9.4	10.9	6.4	5.8	6.8	11.9
	中国・四国	284	66.2	36.3	37.0	40.5	34.9	25.0	34.5	27.1	30.6	22.2	21.5	27.1	25.4	22.5	20.1	23.9	12.7	16.9	20.4	27.8	25.0	20.8	16.5	15.5	15.8	15.5	8.1	10.9	9.2	7.7	6.3	8.1	14.8	6.7	4.2	13.7
	九州・沖縄	365	65.5	31.0	35.6	39.2	38.6	29.9	30.4	25.2	21.6	19.5	24.4	23.3	20.3	23.6	16.4	21.9	17.5	12.3	21.9	25.5	17.5	16.2	12.3	14.8	15.3	13.4	11.2	7.1	8.5	8.2	8.2	8.2	10.1	3.8	4.1	13.7
	大都市圏	1954	63.4	40.9	36.5	33.1	34.2	43.9	27.6	28.7	26.8	28.5	25.6	24.3	24.2	23.8	25.1	22.6	24.3	23.7	19.5	16.3	19.7	15.7	16.6	17.2	16.5	14.2	12.2	11.1	11.2	10.0	8.9	8.5	5.7	6.5	5.7	13.4
	大都市圏以外	1875	68.2	36.2	38.6	39.1	37.7	27.3	31.9	28.3	27.4	22.9	24.9	25.7	25.1	24.3	20.6	23.1	16.3	16.4	20.9	24.1	19.0	18.2	15.1	14.3	14.0	14.5	10.5	9.2	9.0	9.4	8.4	8.2	10.4	5.4	4.6	11.8
男女別	男子	1430	59.7	29.3	35.9	27.8	31.7	28.2	23.5	25.1	20.8	20.5	26.0	20.7	23.9	19.4	23.4	20.8	15.9	23.7	16.9	16.5	18.3	18.6	14.6	16.2	12.0	12.0	8.1	11.3	8.7	8.0	6.3	9.4	5.8	4.8	6.2	12.8
	女子	2398	69.4	44.1	38.6	41.0	38.4	40.3	33.4	30.5	30.8	28.9	24.8	27.5	24.9	26.9	22.6	24.1	23.0	18.0	22.1	22.3	19.9	16.0	16.6	15.5	17.3	15.8	13.3	9.5	10.8	10.6	10.1	7.7	9.3	6.6	4.5	12.5
文理別	文系	2105	65.0	42.5	37.7	34.6	37.2	37.2	26.9	27.9	29.6	28.1	26.8	25.6	23.6	24.8	25.0	23.8	21.9	23.1	22.2	18.4	20.6	18.5	18.4	15.5	17.2	16.3	15.6	10.2	10.9	10.8	9.7	8.7	8.1	6.6	5.4	13.3
	理系	1432	67.8	33.3	36.0	36.0	34.6	33.9	32.3	30.4	23.9	23.3	23.5	25.0	28.2	23.0	21.3	21.4	17.4	18.0	17.4	23.5	18.6	15.5	12.4	16.8	13.9	12.4	6.1	11.4	9.1	8.3	7.1	8.5	7.6	5.5	5.5	12.0

100.0　「進学者全体(2016年)」より5ポイント以上高い　　100.0　「進学者全体(2016年)」より5ポイント以上低い
※「進学者全体(2016年)」の降順ソート　※2011年は東北を含まない数字　※大都市圏:1都3県(南関東)、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県

性が広げられること」とあり、まずは生徒の興味の方向性や意思を尊重し、可能性を広げてあげたいという気持ちが窺える。

保護者については、3位以降は就職や資格・社会で役立つ力といった、卒業後に社会で生かせる力が身につくかどうか、という視点が主である。

高校生の進路に関する相談相手のトップは「母親」で8割を超える（父親は38.2％）。さらに保護者は、「子どもと一緒に考えたい」という理由で、「アドバイス」するのみでなく、学校研究や資料請求等、実際に自分たちで「行動する」傾向が強くなっている。影響力を増す保護者に対して、今後の社会動向も含めた教育内容、卒業後の展望を伝えていく必要があるだろう。

一方、高校の教員は、3位に「学生の面倒見が良いこと」、5位に「教育方針・カリキュラムが魅力的であること」が入る。就職のみでなく、そこに至るまでのプロセスに注目。フォローや教育内容も含めて伴走する姿勢まで、検討項目に入れている。高校教員の大学や専門学校に対する要望の中でも、「自分の高校の卒業生の様子を報告してほしい」という声は高い。実際に高校で卒業生が講演する機会も増えている。学校の「教育成果」としての在校生とそのフィードバックも、学校の評価を左右するポイントとなるだろう。

教育の特色が伝わっているのは専門学校

地元志向についても見ておこう。全体の5割弱（46.7％）が地元進学を希望しており、地元を離れたい（18.6％）を上回った（図表15）。2009年から3回連続で増加していた地元志向だが（2009年40.1％→2011年46.5％→2013年49.4％）、景況感が多少回復したせいか、今回初めて減少に転じている。

エリア別では、南関東（61.3％）、関西（55.1％）をはじめ、大都市圏の地元志向が高い（59.0％）。学校数が多く選択肢も幅広いため、地元外に出なくてもよいという事情もあるだろう。大都市圏以外では、「東北」「北関東・甲信越」「北陸」のように、地元に「残りたい」より「離れたい」のほうが高いエリアもある。

男女別では、男子よりも女子の地元志向が高い（男子41.7％・女子49.8％）。

また、最後に、大学・短大・専門学校、それぞれの進学者が考える「進学のメリット」について比較していきたい（図表16）。全体的なスコアとして専門学校のポイントが高く、専門学校進学者は専門学校に多くのメリットを感じていることが分かる。

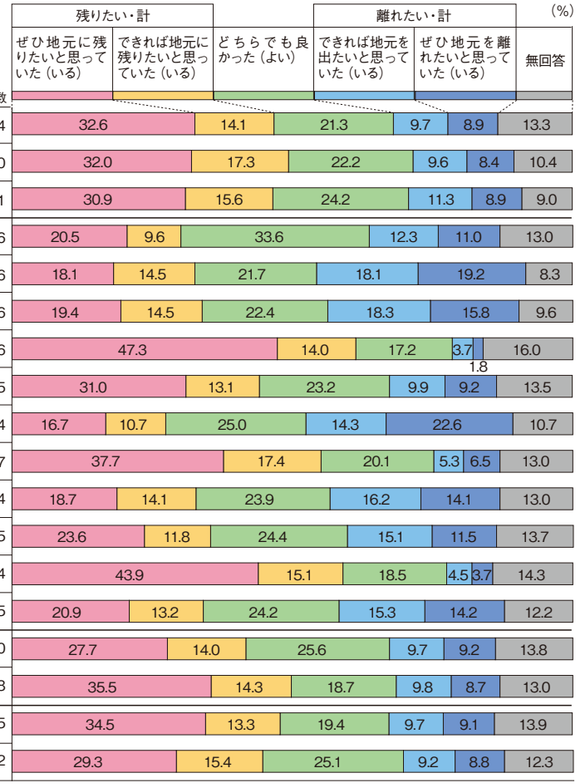
まず大学は、トップが「将来の選択肢が広がる」（83.4％）、また5位に「幅広い教養を身につけられる」（80.8％）が入る等、やりたいことを今決めきらず、可能性を広げておける、在学中に見つけられるという点がポイントだ。さらに、2位、3位には「クラブ・サークル活動」（82.8％）、「学生生活」（82.7％）が入り、キャン

図表14　高校生・保護者・高校の教員の志望校検討時の重視項目

	高校生	保護者※1	高校の教員※2
1位	学びたい学部・学科・コースがあること（65.6％）	子どもの学びたい学部・学科・コースがあること（77.1％）	学びたい学部・学科・コースがあること（72.9％）
2位	校風や雰囲気が良いこと（38.6％）	子どもの興味や可能性が広げられること（56.9％）	生徒の興味や可能性が広げられること（54.7％）
3位	就職に有利であること（37.5％）	就職に有利であること（55.5％）	学生の面倒見が良いこと（53.2％）
4位	資格取得に有利であること（36.0％）	社会で役立つ力が身につくこと（47.0％）	就職に有利であること（45.5％）
5位	自分の興味や可能性が広げられること（35.8％）	卒業後に社会で活躍できること（46.2％）	教育方針・カリキュラムが魅力的であること（42.5％）
6位	自宅から通えること（35.7％）	資格取得に有利であること（44.9％）	卒業後に社会で活躍できること（42.5％）

※1「高校生と保護者の進路に関する意識調査2015」より　※2「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2014」より

図表15　志望校検討時の地元選択志向（進学者全体／単一回答）



		調査数	2016年 残りたい・計	2016年 離れたい・計	2013年 残りたい・計	2013年 離れたい・計	2011年 残りたい・計	2011年 離れたい・計
進学者全体（2016年）		3844	46.7	18.6	-	-	-	-
進学者全体（2013年）		4250	-	-	49.4	18.0	-	-
進学者全体（2011年）		9681	-	-	-	-	46.5	20.3
高校所在エリア別	北海道	146	30.1	23.3	37.1	29.6	33.7	33.2
	東北	276	32.6	37.3	34.2	27.9	-	-
	北関東・甲信越	366	33.9	34.2	37.0	28.3	34.3	32.4
	南関東	1106	61.3	5.5	65.1	5.8	56.5	8.8
	東海	465	44.1	19.1	46.1	19.8	43.6	21.2
	北陸	84	27.4	36.9	35.0	35.0	31.1	34.9
	関西	737	55.1	11.8	55.6	11.7	55.0	12.3
	中国・四国	284	32.7	30.3	31.4	33.9	32.6	38.3
	九州・沖縄	365	35.3	26.6	38.8	26.1	34.5	35.5
	大都市圏	1954	59.0	8.2	61.2	8.5	56.3	10.0
	大都市圏以外	1875	34.1	29.5	37.2	27.7	35.0	32.5
男女別	男子	1430	41.7	18.9	47.6	17.9	41.4	21.0
	女子	2398	49.8	18.5	50.5	18.1	49.9	19.8
文理別	文系	2105	47.9	18.8	50.3	18.1	48.1	20.3
	理系	1432	44.6	18.0	48.3	18.6	43.8	20.7

100.0　「進学者全体（各該当年）」より5ポイント以上高い　　100.0　「進学者全体（各該当年）」より5ポイント以上低い
※地元の定義は、2011年は定義なし。2013年以降は「自宅から通える範囲」とした。　※2011年は東北を含まない数字　※大都市圏：1都3県（南関東）、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県

図表16　大学・短大・専門学校進学のメリット

	大学進学者が感じる 大学進学のメリット（キャンパスライフ＋将来の選択肢の広さ）	短期大学進学者が感じる 短期大学進学のメリット（専門分野の勉強＋就職）	専門学校進学者が感じる 専門学校進学のメリット（目指す仕事・職種＋手に職）
1位	将来の選択肢が広がる（83.4％）	早く社会に出られる（2年で卒業できる）（74.9％）	自分の目指す仕事・職種につける（88.3％）
2位	クラブ・サークル活動を楽しめる（82.8％）	自分のやりたい専門分野の勉強に集中できる（69.5％）	自分のやりたい専門分野の勉強に集中できる（88.3％）
3位	学生生活が楽しめる（82.7％）	少なくともどこかに就職できる可能性が高くなる（67.5％）	手に職をつけられる（84.4％）
4位	有名企業や大手企業に就職できる可能性が高くなる（82.5％）	自分の目指す仕事・職種につける（67.0％）	特定の業種・業界に就職しやすい（83.7％）
5位	幅広い教養を身につけられる（80.8％）	やりがいのある仕事ができる（63.5％）	そこでしか学べない内容がある（83.2％）
6位	少なくともどこかに就職できる可能性が高くなる（80.0％）	就職してから活躍できる実力を身につけられる、手に職をつけられる（59.6％）	やりがいのある仕事ができる（81.0％）

パスライフも選ばれるポイントとなっていることが分かる。

短大は2位に「専門分野の勉強に集中できる」(69.5％)、4位に「目指す仕事・職種につける」(67.0％)が入り、大学とは違って専門性や仕事・職種に対する意識が高い。3位と6位は「就職」に関連しており、専門性を生かして就職するというビジョンがみてとれる。

専門学校はトップが「自分の目指す仕事・職種につける」(88.3％)、3位に「手に職をつけられる」(84.4％)と、目指す職種があり、手に職をつけたいという意思が明確にある。業種や業界に対する意識も高い。

大学・短大・専門学校の中で、専門学校のみに「そこでしか学べない内容がある」(83.2％)が挙がっている。大学は53.5％、短大は58.1％とどちらも6割に満たない。オープンキャンパスの章で前述したように、校名認知の低い専門学校の方が、大学・短大より教育の独自性や特色について磨き込み、高校生に分かる言葉で伝える努力をしているということではないだろうか。改めて、「本校でしか学べない」ことは何なのかを、今一度高校生に伝えていく必要があるだろう。

就職に有利と感じるのは男子は「就職実績」女子は「サポート」

重視項目の3位に入った「就職に有利」だが、具体的に何を以て有利と感じるのだろうか。トップは「企業への就職率が良いこと」(45.9％)、次いで「就職活動のサポート体制がしっかりしていること」(33.0％)、「資格試験の合格率が高いこと」(31.0％)であった(図表17)。高校生にとっては、就職に有利＝就職率となっていることが分かる。

前回調査と比較すると、1位、2位は不動だが、前回3、4位の「希望する職種につきやすいこと」「希望する業界への就職が強いこと」が順位を下げ、前回5位だった「資格試験の合格率」が3位に上昇している。

最終進路別では、大学で「企業への就職率が良いこと」「大手・有名企業への就職実績が良いこと」が高く、就職先企業名にも注目していることが窺える。

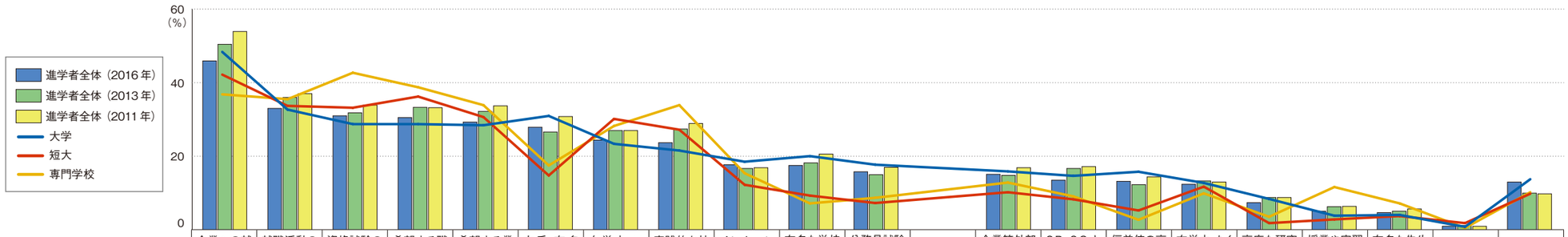
専門学校では「希望する職種につきやすいこと」「資格試験の合格率が高いこと」「実践的な技術が身につけられること」が高く、自分の希望する職種や業界に直結しているかどうかを見ていることが特徴だ。

エリア別では、「大手・有名企業の就職実績が良いこと」は大都市圏(30.3％)と大都市圏以外(25.4％)で4.9ポイントの差があり、大都市圏のほうが有利と感じる傾向にある。また、「有名な学校である」「偏差値の高い大学である」等のブランド性も大都市圏が高い。一方、「資格試験の合格率が高いこと」は、大都市圏(27.0％)を大都市圏以外(35.1％)が8.1ポイント上回った。

男女別では、男女とも1位は「企業への就職率が良いこと」(男子49.3％・女子44.0％)であるが、2位は男子が「大手・有名企業への就職実績が良いこと」(32.3％)であるのに対し、女子は「就職活動のサポート体制がしっかりしていること」(36.4％)となっている。さらに女子の3位の「資格試験の合格率が高いこと」は男女で9.6ポイントの開きがあった。男子は就職率や実績という「結果」を見ているのに対し、女子は自分に伴走し、サポートしてくれるのかというプロセスを見ている。

文理別では、どちらも1位は「企業への就職率がよいこと」(文系48.7％・理系43.8％)であるが、2位は文系が「就職活動のサポート体制がしっかりしていること」(36.0％)に対し、理系は「資格試験の合格率が高いこと」(36.2％)だった。このほか、文系は「在学中、いろいろな体験ができること」が高く、理系は「資格試験の合格率が高いこと」「実践的な技術が身につけられること」「高度な研究に関わることができること」が高い。

図表17　「就職に有利」と感じること（進学者全体／複数回答）



		調査数	企業への就職率が良いこと	就職活動のサポート体制がしっかりしていること	資格試験の合格率が高いこと	希望する職種につきやすいこと	希望する業界への就職が強いこと	大手・有名企業への就職実績が良いこと	在学中、いろいろな体験ができること	実践的な技術が身につけられること	インターンシップが充実していること	有名な学校（大学・専門学校）であること	公務員試験の合格率が高いこと		企業等外部機関との連携が強いこと	OB・OGとの結びつきが強いこと	偏差値の高い大学であること	在学中、たくさんの友人や先輩と交流できること	高度な研究に関わることができること	授業や実習での指導が厳しいこと	有名な先生の指導を受けられること	その他	無回答
進学者全体（2016年）		3844	45.9	33.0	31.0	30.5	29.3	27.9	24.4	23.7	17.7	17.5	15.8		15.1	13.5	13.2	12.4	7.4	5.1	4.7	1.0	13.0
進学者全体（2013年）		4250	50.4	36.0	31.8	33.3	32.2	26.6	27.0	27.4	16.7	18.2	15.0		14.8	16.7	12.3	13.3	8.8	6.3	5.1	1.2	10.0
進学者全体（2011年）		9681	53.9	37.0	33.9	33.2	33.7	30.8	27.0	28.9	16.9	20.6	17.0		16.9	17.2	14.4	13.0	8.8	6.4	5.7	1.0	9.8
最終進路別	大学	3051	48.0	32.5	28.6	28.6	28.3	30.8	23.3	21.5	18.5	20.0	17.7		15.9	14.7	15.8	12.8	8.5	4.0	4.2	1.0	13.8
	短大	203	41.9	33.5	33.0	36.0	30.5	14.8	30.0	27.1	12.3	9.4	7.4		10.3	8.4	5.4	11.8	2.0	3.0	3.9	2.0	9.9
	専門学校	590	36.6	35.3	42.4	38.5	33.7	17.5	28.1	33.7	15.4	7.3	8.8		12.9	9.2	2.9	10.0	3.7	11.7	7.3	0.7	10.3
高校所在エリア別	北海道	146	43.8	34.2	37.0	26.0	30.1	24.7	28.1	27.4	21.2	9.6	19.2		13.7	13.0	7.5	12.3	8.9	4.8	2.7	-	15.1
	東北	276	46.4	35.1	40.2	35.9	32.6	25.0	30.1	30.8	17.0	13.4	22.8		19.6	18.1	10.9	14.9	9.4	6.5	4.7	0.7	8.3
	北関東・甲信越	366	43.4	37.4	35.2	33.1	31.1	25.7	24.3	23.0	15.8	16.1	17.2		16.4	11.5	13.1	14.2	9.3	3.3	4.6	1.1	9.6
	南関東	1106	48.5	32.8	25.4	28.8	28.2	31.7	23.6	21.2	18.4	20.7	14.5		15.5	16.5	15.4	11.6	6.5	4.9	4.0	1.0	15.5
	東海	465	46.2	33.3	32.5	28.8	31.6	27.3	21.9	26.0	13.8	15.5	18.1		14.4	10.5	12.7	10.5	6.5	6.9	5.4	0.6	12.7
	北陸	84	41.7	35.7	34.5	36.9	28.6	28.6	26.2	19.0	16.7	14.3	13.1		17.9	9.5	15.5	11.9	3.6	3.6	1.2	-	8.3
	関西	737	45.2	30.7	27.5	29.7	29.2	29.6	22.3	20.6	19.1	23.1	14.0		13.2	11.4	15.3	13.0	7.6	4.3	6.1	1.4	12.1
	中国・四国	284	44.4	34.5	37.0	35.9	26.4	21.8	28.9	28.2	14.4	13.4	14.4		15.1	12.0	9.2	13.7	10.2	6.7	6.0	1.4	13.0
	九州・沖縄	365	45.2	30.1	34.0	29.9	28.5	24.4	24.9	26.3	21.9	11.0	14.8		14.8	14.0	10.7	11.2	6.0	5.5	3.3	0.8	14.5
	大都市圏	1954	47.3	32.1	27.0	28.7	29.0	30.3	23.2	22.1	18.4	20.8	14.8		14.2	14.0	14.9	12.3	6.7	5.1	4.8	1.2	13.8
	大都市圏以外	1875	44.6	34.1	35.1	32.5	29.8	25.4	25.7	25.5	17.1	14.1	16.9		16.2	13.1	11.6	12.5	8.3	5.2	4.5	0.7	12.1
男女別	男子	1430	49.3	27.5	25.0	26.6	27.8	32.3	18.1	20.2	15.2	18.3	19.0		15.3	16.3	14.1	10.6	10.5	4.1	4.3	0.6	13.4
	女子	2398	44.0	36.4	34.6	32.9	30.3	25.4	28.1	25.9	19.2	17.0	14.0		15.1	11.9	12.8	13.4	5.6	5.8	4.8	1.2	12.7
文理別	文系	2105	48.7	36.0	27.4	29.1	28.3	28.7	26.5	21.0	20.9	19.5	18.1		15.7	14.8	14.8	13.4	3.0	4.5	4.6	0.9	13.7
	理系	1432	43.8	29.8	36.2	32.5	30.6	28.6	20.8	28.0	13.8	16.4	13.8		14.9	12.4	12.4	10.8	14.7	5.7	4.5	1.0	12.3

100.0　「進学者全体(2016年)」より5ポイント以上高い　　100.0　「進学者全体(2016年)」より5ポイント以上低い
※「進学者全体(2016年)」の降順ソート　※2011年は東北を含まない数字　※大都市圏:1都3県(南関東)、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県

男女・エリア・文理系別の進路行動プロセスの違い

最後に、「男子・女子」「大都市圏・大都市圏以外」「文系・理系」における志向の違いについてまとめる（図表18～20）。

まず「男子・女子」だが、学校選択重視項目において、男子は「就職に有利」を重視するのに対し、女子は「校風や雰囲気」を重視。では、何をもって就職に有利と感じるのかでは、男子は「大手・有名企業への就職実績」を重視し、女子は「サポート体制」を重視する。重視項目やオープンキャンパスへの期待等、女子は全体的に様々な情報収集に積極的で、進路選択行動も早い。

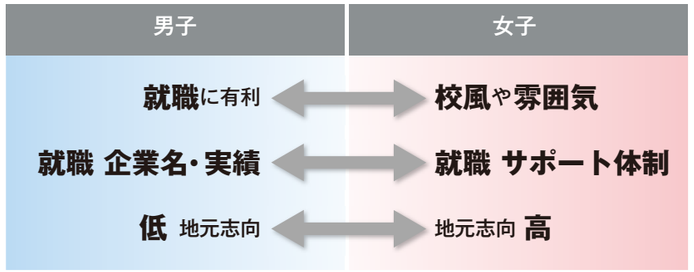
次に「大都市圏・大都市圏以外」だが、学校選択重視項目において、大都市圏は「自宅から通える」「校風や雰囲気」「キャンパスがきれい」を重視。対して大都市圏以外では、「就職に有利」「資格取得に有利」と、卒業後の進路に注目する傾向がある。

最後に「文系・理系」では、学校選択重視項目において、文系が「校風や雰囲気」を重視するのに対し、理系は「学習設備や環境」「専門分野」を重視。学びたい分野の勉強に集中できる環境かどうかを見ている。また、理系は授業料の安さを重視するのに対し、文系は理系ほど重視していない。一般的に、私立大学の学費は文系より理系のほうが高く、国立大学にはない施設設備費等も上乗せされるため、授業料や学費の安さを重視するのは必然だろう。

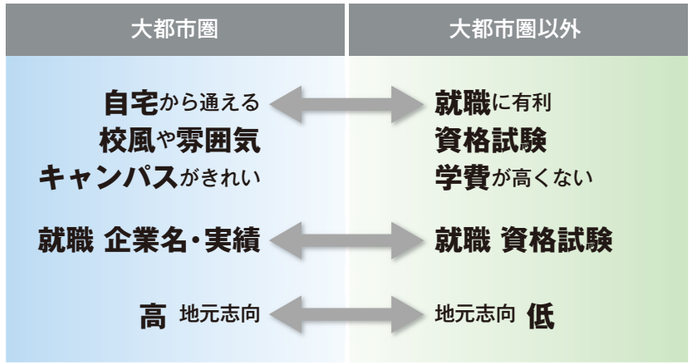
見てきたように、一言で「高校生」といっても、性別や高校所在地、文系理系で大きく進路選択行動や志向は異なる。しかし共通して彼らが知りたいのは、その学校の教育内容の特色―そこでしか学べないことは何か、ということだ。

これからの進路選択では、高等教育機関の個性を明確に打ち出し、多様化している高校生ニーズに応えることが重要になるだろう。自校の教育力と個性を高め、高校生のみでなくステークホルダーに対しても分かりやすく伝えることが求められている。

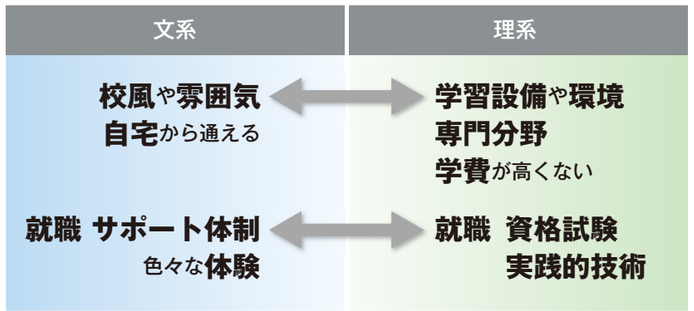
図表18　＜まとめ＞高校生の進路選択行動傾向（男子・女子）



図表19　＜まとめ＞高校生の進路選択行動傾向（大都市圏・大都市圏以外）



図表20　＜まとめ＞高校生の進路選択行動傾向（文系・理系）



大学進学者の留学意向

大学進学者の3人に1人は「留学意向あり」

大学進学者に留学意向を尋ねると、「留学意向なし」（35.9％）が「留学意向あり」（33.9％）を上回った（図表21）。前回調査と比較すると、「留学意向あり」は0.5ポイント増加している。

男女別では、男子（28.8%）より女子（37.3%）のほうが、文理別では理系（27.8%）より文系（38.5%）のほうが留学に意欲的である。男女×文理別では、「文系女子」（42.0%）「文系男子」（31.8％）「理系女子」（28.6%）「理系男子」（26.6％）の順に多い。

図表にはないが、経年でみると男子の意向者が2回連続増加（2011年25.3％ → 2013年 25.8％ → 2016年 28.8％）。特に理系男子は6.3ポイントも増加している（2011年20.3％→2013年22.6%→2016年26.6％）。一方、女子は前回調査より減少している（2013年39.7%→2016年37.3％）。

「就職」を意識し男子意向者は増加 女子は「治安への不安」により減少

留学したい理由は、「英語（外国語）で会話ができるようになりたい」（74.5％）がトップ（図表22）。次いで、「自分の視野や考え方を広げたい」（69.4%）「外国の価値観・文化等を理解できる」（59.7%）となっている。男女別では、女子は「外国の価値観・文化等を理解できる」「色々な国の人と交流できる」「外国人の友達ができる」等が高く、異文化コミュニケーションに対して積極的だ。

経年で増加したのは「就職の時に役に立つ」（2013年 35.7％→2016年 36.5％）のみ。特に理系男子でこの項目が上昇している（2011年 26.2％→2013年 30.0%→2016年 35.8％）ことから、前述した男子の留学意向者の増加は、留学が「就職に役立つ」と考えている層が増加したためと考えられる。

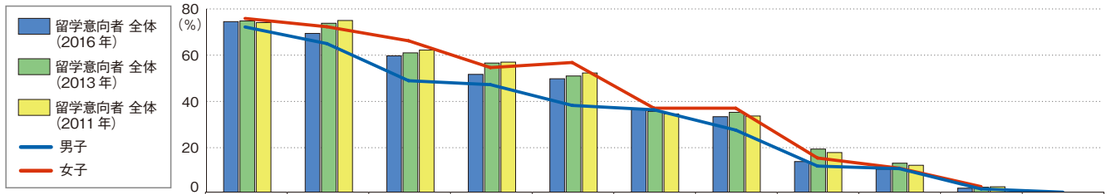
一方、留学したいと思わない理由の1位は「費用が高いから」（43.9％）（図表23）。次いで「英語（外国語）が苦手だから」（40.5％）「海外の治安に不安があるから」（34.3％）となっており、「費用」「外国語」「治安」が留学の3大ハードルになっているといえる。男女別で

図表21　留学意向（大学進学者／単一回答）

		調査数	留学意向あり 留学したい	留学意向あり できれば留学したい	どちらでもよい	留学意向なし あまり留学したいと思わない	留学意向なし 留学したいと思わない	無回答	留学意向あり	留学意向なし
								（%）		
大学進学者全体（2016年）		3051	16.7	17.2	16.5	13.2	22.6	13.8	33.9	35.9
大学進学者全体（2013年）		3256	17.0	16.4	18.0	12.9	25.6	10.0	33.4	38.6
大学進学者全体（2011年）		7502	15.5	17.3	17.4	13.8	26.7	9.4	32.8	40.4
高校所在エリア別	大都市圏	1645	17.4	15.7	16.4	14.0	21.9	14.5	33.2	35.9
	大都市圏以外	1394	15.6	18.9	16.6	12.4	23.5	12.9	34.5	35.9
男女別	男子	1266	13.5	15.3	19.1	14.3	24.5	13.3	28.8	38.8
	女子	1772	18.8	18.5	14.6	12.5	21.4	14.2	37.3	33.9
文理別	文系	1695	21.1	17.4	14.9	12.8	19.1	14.7	38.5	31.9
	理系	1220	10.7	17.0	18.9	13.8	26.6	13.0	27.8	40.4
文理×男女別	文系・男子	601	15.6	16.1	18.6	14.1	20.6	14.8	31.8	34.8
	文系・女子	1087	23.9	18.1	12.8	12.1	18.4	14.6	42.0	30.5
	理系・男子	610	11.3	15.2	20.0	14.3	27.2	12.0	26.6	41.5
	理系・女子	604	9.8	18.9	17.9	13.2	26.2	14.1	28.6	39.4

※2011年は東北を含まない数字　※大都市圏：1都3県（南関東）、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県

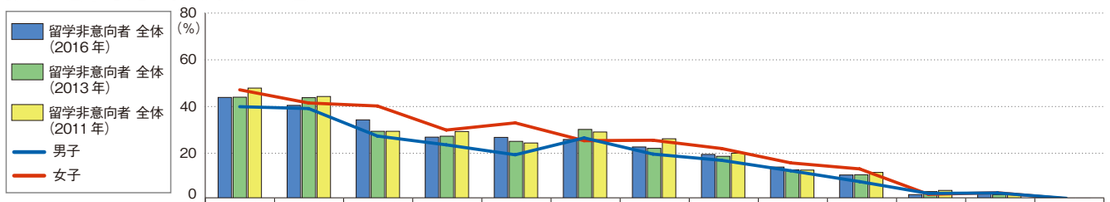
図表 22　留学したい理由（大学進学者における留学意向者／複数回答）



		調査数	英語（外国語）で会話ができるようになりたい	自分の視野や考え方を広げたい	外国の価値観・文化等を理解できる	海外での生活を体験してみたい	色々な国の人と交流できる	就職の時に役に立つ、有利になる	外国人の友達ができる	将来、海外の企業で働きたい	将来、海外出張や転勤等で困らないように	その他	無回答
留学意向者全体※	2016年	1034	74.5	69.4	59.7	51.7	49.8	36.5	33.4	14.0	10.7	2.5	0.3
	2013年	1088	74.8	73.8	61.0	56.6	51.0	35.7	35.3	19.4	13.3	2.9	0.3
	2011年	2460	74.1	75.0	62.2	57.0	52.3	34.6	33.7	17.9	12.4	3.1	0.2
高校所在エリア別	大都市圏	546	74.9	67.6	58.2	51.5	47.8	36.8	32.6	14.8	11.2	2.6	0.2
	大都市圏以外	481	73.8	71.7	61.7	52.2	52.6	36.4	34.5	13.1	10.4	2.5	0.4
男女別	男子	365	72.1	64.9	48.8	47.1	38.1	36.2	27.4	11.8	10.7	1.9	0.5
	女子	661	75.8	72.2	66.1	54.5	56.7	36.9	36.9	15.3	10.9	2.9	-
文理別	文系	652	75.8	69.5	64.6	53.8	52.9	38.2	36.3	14.6	11.5	3.4	0.3
	理系	339	72.9	69.6	50.7	48.1	43.7	33.3	27.1	11.2	8.6	0.6	0.3
文理×男女別	文系・男子	191	74.9	63.4	53.4	49.7	38.7	35.6	30.4	8.4	11.0	2.6	1.0
	文系・女子	457	76.1	72.2	69.4	55.6	59.1	39.6	38.9	17.1	11.8	3.7	-
	理系・男子	162	69.8	67.9	42.6	43.2	36.4	35.8	24.1	14.2	8.6	0.6	-
	理系・女子	173	75.7	71.7	59.5	53.2	51.4	31.2	30.6	8.7	8.7	0.6	-

100.0　「留学意向者全体（2016年）」より5ポイント以上高い　　100.0　「留学意向者全体（2016年）」より5ポイント以上低い
※「留学意向者全体（2016年）」の降順ソート　※大学進学者における留学意向者　※2011年は東北を含まない数字　※大都市圏：1都3県（南関東）、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県

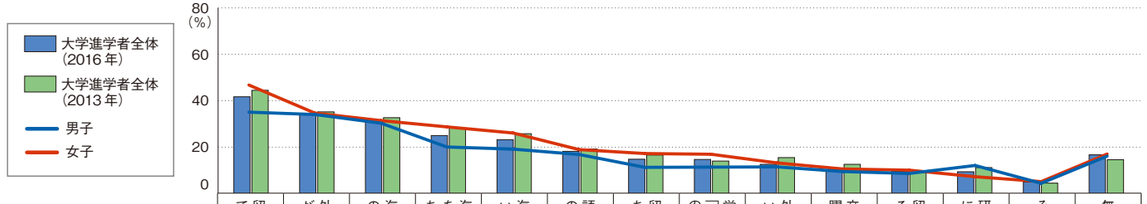
図表 23　留学したいと思わない理由（大学進学者における留学非意向者（どちらでもよい含む）／複数回答）



		調査数	費用が高いから（費用がかかるから）	英語（外国語）が苦手だから	海外の治安に不安があるから	日本で勉強できれば十分だから	将来、海外で仕事をしたいと思わないから	そもそも留学ということを考えたことがないから	一人で生活していく自信がないから	海外留学の必要性を感じないから	在学している学校を休学しなければならないから	自分がやりたい分野は日本で勉強するのが一番だから	就職活動に支障があるから	その他	無回答
留学非意向者全体※	2016年	1596	43.9	40.5	34.3	26.9	26.8	25.9	22.7	19.5	14.1	10.7	2.3	2.8	0.3
	2013年	1842	44.0	43.8	29.4	27.3	25.1	30.2	22.1	18.7	12.9	10.8	3.6	2.3	0.8
	2011年	4335	47.9	44.3	29.4	29.3	24.4	29.1	26.2	20.0	12.8	11.8	4.1	2.4	0.8
高校所在エリア別	大都市圏	860	42.0	40.3	32.7	27.1	27.9	25.8	24.0	20.3	14.3	10.5	2.4	3.4	0.3
	大都市圏以外	733	46.1	40.5	36.4	26.9	25.2	25.9	21.3	18.7	13.9	10.8	2.0	2.0	0.3
男女別	男子	733	40.0	39.2	27.3	23.5	19.2	26.5	19.5	16.8	12.3	7.6	2.5	2.7	0.4
	女子	860	47.3	41.6	40.3	29.9	33.0	25.3	25.5	21.9	15.7	13.1	2.1	2.8	0.2
文理別	文系	793	45.3	40.6	35.7	26.4	30.1	27.0	26.0	18.4	14.4	11.2	2.4	2.6	0.5
	理系	723	41.2	39.8	33.5	27.5	23.8	24.8	19.8	20.9	13.8	10.5	2.1	2.9	0.1
文理×男女別	文系・男子	321	42.4	38.3	27.1	24.0	23.7	26.8	22.4	14.6	13.1	6.2	1.9	2.2	0.6
	文系・女子	471	47.3	42.0	41.6	28.0	34.6	27.0	28.5	21.0	15.3	14.6	2.8	3.0	0.4
	理系・男子	375	37.1	38.7	27.7	24.0	15.7	26.4	17.9	18.1	11.7	9.3	2.9	3.2	0.3
	理系・女子	346	46.0	41.3	39.6	31.2	32.1	23.1	22.0	23.7	16.2	11.6	1.2	2.6	-
留学意向別	どちらでもよい	502	49.8	34.3	31.3	15.9	15.1	15.1	21.7	7.8	18.7	6.0	2.4	2.6	0.2
	留学意向なし	1094	41.1	43.3	35.7	32.0	32.1	30.8	23.1	25.0	12.0	12.8	2.2	2.8	0.4

100.0　「留学非意向者全体（2016年）」より5ポイント以上高い　　100.0　「留学非意向者全体（2016年）」より5ポイント以上低い
※「留学非意向者全体（2016年）」の降順ソート　※大学進学者における留学非意向者（どちらでもよい含む）　※2011年は東北を含まない数字　※大都市圏：1都3県（南関東）、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県

図表 24　「国際的な取り組みをしている学校」と感じる事柄（大学進学者かつ「学校の国際的な取り組み」重視者／複数回答）



		調査数	留学制度が充実している	外国語を使う授業が多い	海外からの留学生の数が多い	海外の価値観・文化を理解する機会がある	海外の提携校が多い	語学力取得のための施設・設備がある	留学補助金制度がある	学校や学部の名前に「国際」「グローバル」等の言葉が入っている	外国人の先生が多い	卒業生が海外で活躍している	留学生と生活できる国際寮がある	研究内容が国際的に評価されている	その他	無回答
大学進学者全体※	2016年	3051	41.7	34.4	30.9	25.0	23.2	18.2	14.8	14.7	12.6	10.2	9.6	9.4	5.0	16.7
	2013年	3256	44.5	35.2	32.7	28.2	25.8	19.2	16.6	14.0	15.5	12.6	9.6	11.2	4.5	14.6
高校所在エリア別	大都市圏	1645	41.7	34.3	28.6	24.9	22.2	17.6	14.7	15.7	13.3	9.8	8.0	9.8	5.2	17.1
	大都市圏以外	1394	41.8	34.5	33.7	25.3	24.4	18.7	15.0	13.6	11.8	10.7	11.5	9.0	4.7	16.3
男女別	男子	1266	35.0	34.0	30.3	20.1	19.2	16.9	11.4	11.5	11.6	9.6	8.8	12.2	4.6	16.2
	女子	1772	46.6	34.6	31.4	28.7	26.1	19.0	17.3	17.0	13.3	10.7	10.2	7.4	5.3	17.1
文理別	文系	1695	44.9	39.1	31.4	28.6	25.7	21.1	16.9	18.0	14.3	10.9	10.1	7.8	3.6	16.9
	理系	1220	37.0	28.0	30.7	20.6	19.8	14.3	12.6	9.5	10.1	9.5	8.8	12.0	6.7	17.0
文理×男女別	文系・男子	601	36.8	38.6	30.9	21.8	21.8	18.5	13.5	15.6	13.3	10.0	10.8	8.8	2.5	17.3
	文系・女子	1087	49.5	39.3	31.8	32.5	27.8	22.5	19.0	19.4	14.8	11.5	9.8	7.3	4.1	16.6
	理系・男子	610	33.0	29.5	29.8	18.7	16.7	15.7	10.0	6.2	10.2	9.7	7.4	15.9	6.4	15.4
	理系・女子	604	41.1	26.2	31.6	22.7	23.0	12.9	15.4	12.7	9.9	9.4	10.1	7.9	7.1	18.9
国際的取り組み重視度別	重視・計	811	62.5	53.6	42.2	41.1	37.1	31.8	24.5	20.8	17.3	14.4	15.3	10.9	1.2	0.5
	どちらでもよい	661	44.0	35.2	34.5	25.1	23.8	16.5	12.6	15.4	13.6	10.7	9.8	12.9	4.1	4.2
	非重視・計	1170	40.3	32.5	31.7	22.4	21.4	16.0	14.4	15.1	13.1	10.3	8.9	9.7	9.9	6.6

100.0　「大学進学者全体（2016年）」より5ポイント以上高い　　100.0　「大学進学者全体（2016年）」より5ポイント以上低い
※「大学進学者全体（2016年）」の降順ソート　※大学進学者かつ「学校の国際的な取り組み」重視者　※大都市圏：1都3県（南関東）、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県

は、「海外の治安に不安があるから」「将来、海外で仕事をしたいと思わないから」は女子のほうが高くなっている。また、留学に対して「どちらでもよい」と回答した学生は、トップに「費用が高いから」（49.8%）と経済的な理由を挙げているのに対し、留学意向のない学生は「英語（外国語）が苦手だから」（43.3%）をトップに挙げており、外国語への苦手意識がハードルになっていることが分かる。

前回と比較して増加したのは、「海外の治安に不安があるから」（2011年・2013年29.4%→34.3%）で、特に女子の増加率が高い（2011年32.8%→2013年33.2%→2016年40.3%）。昨今海外でのテロ等の報道が多かったこともあり、特に女子が不安に感じた結果、前述した留学意向者の減少につながったと考えられる。留学に対するフォロー体制や現地でのサポート制度等、安心して飛び立てる環境整備が必要になるだろう。

「国際的な大学」だと感じるのは留学制度の充実と外国語を使う授業

大学の国際的な取り組みについて重視したかを聞いたところ、4人に1人（26.6%）が重視したと答えている。しかし非重視（38.3%）のほうが高い。男子（21.6%）より女子（30.0%）、理系（18.0%）より文系（32.7%）のほうが重視する傾向にある。

では、国際的な取り組みを重視したと回答した学生に、大学が国際的な取り組みをしていると感じる事柄は何かと尋ねると、トップは「留学制度が充実している」（41.7%）、次いで「外国語を使う授業が多い」（34.4%）「海外からの留学生の数が多い」（30.9%）と続き、高校生にとっての「国際的」とは留学や外国語取得のイメージが強いことが分かる（図表24）。

男女別では、ほとんどの項目で女子が男子を上回るが、女子は特に留学制度、異文化理解、海外提携校等を「国際的」と捉えているようだ。一方、理系男子は研究内容の国際的評価に関心が高い。

（リクルート進学総研 研究員　牧田綾子）

▶カレッジマネジメントTOPページへ戻る